

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウホクガクイン 学校法人 東北学院							
フリガナ大学の名称	トウホクガクインダイガク 東北学院大学 (Tohoku Gakuin University)							
大学本部の位置	宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号							
大学の目的	キリスト教による人格教育を基礎として、広く知識を受けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって世界文化の創造と人類の福祉に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	情報科学、数理科学、社会科学を包括する学びを通じて、人間の社会活動によって生み出される情報を理解する能力を育み、情報活用に基づいた社会の課題解決や新たな社会的価値の創出に貢献する人材を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	情報学部 [Faculty of Informatics]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
	データサイエンス学科 [Department of Data Science]	4	190	-	760	学士 (情報学) 【Bachelor of Informatics】	令和5年4月 第1年次	
	計		190	-	760			

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	○学部の設置 地域総合学部 (令和4年6月届出予定) 地域コミュニティ学科 (150) 政策デザイン学科 (145) 人間科学部 心理行動科学科 (165) (令和4年6月届出予定) 国際学部 国際教養学科 (130) (令和4年6月届出予定) ○学生募集停止 経済学部 共生社会経済学科 (廃止) (△187) (2年次編入学定員) (△4) (3年次編入学定員) (△3) 工学部 情報基盤工学科 (廃止) (△110) (3年次編入学定員) (△5) 教養学部 (廃止) 人間科学科 (△110) (2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2) 言語文化学科 (△110) (2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2) 情報科学科 (△110) (2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2) 地域構想学科 (△110) (2年次編入学定員) (△2) (3年次編入学定員) (△2) ※令和5年4月学生募集停止 (2年次編入学定員は令和6年4月学生募集停止) (3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止) ○入学定員の変更 文学部 英文学科 [定員減] (△30) (令和5年4月) (2年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△9) (令和7年4月) 総合人文学科 [定員増] (10) (令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△1) (令和7年4月) 歴史学科 (2年次編入学定員) [定員減] (△2) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△2) (令和7年4月) 教育学科 [定員増] (20) (令和5年4月) 経済学部 経済学科 [定員減] (△10) (令和5年4月) (2年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△9) (令和7年4月) 経営学部 経営学科 (2年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月) 法学部 法律学科 [定員減] (△3) (令和5年4月) (2年次編入学定員) [定員減] (△4) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月) 工学部 機械知能工学科 [定員増] (5) (令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月) 電気電子工学科 [定員増] (20) (令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△6) (令和7年4月) 環境建設工学科 [定員増] (5) (令和5年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△5) (令和7年4月)					
	教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数			
		講義	演習	実験・実習	計	
	情報学部 データサイエンス学科	179 科目	6 科目	8 科目	193 科目	124単位

教 員 組 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新		人	人	人	人	人	人	人	
教 員 組 の 概 要	設	情報学部 データサイエンス学科	11 (11)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	93 (93)	令和4年6月届出済み (予定) 令和4年6月届出済み (予定) 令和4年6月届出済み (予定) 令和4年6月届出済み (予定)
		地域総合学部 地域コミュニティ学科	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	112 (112)	
		政策デザイン学科	7 (7)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	115 (115)	
		人間科学部 心理行動科学科	10 (10)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	114 (114)	
		国際学部 国際教養学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	99 (99)	
	分	計	45 (45)	32 (32)	7 (7)	0 (0)	84 (84)	0 (0)	- (-)	
	既	文学部 英文学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	235 (235)	
		総合人文学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	227 (227)	
		歴史学科	13 (13)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	237 (237)	
		教育学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	163 (163)	
		経済学部 経済学科	14 (14)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	235 (235)	
		経営学部 経営学科	12 (12)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	212 (212)	
		法学部 法律学科	19 (19)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	215 (215)	
		工学部 機械知能工学科	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	93 (93)	
		電気電子工学科	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	97 (97)	
		環境建設工学科	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	112 (112)	
		教養教育センター	8 (8)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
		ラーニング・commons	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		宗教音楽研究所	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		英語教育センター	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
分		計	121 (121)	49 (49)	16 (16)	6 (6)	(192) (192)	0 (0)	- (-)	
	合 計	166 (166)	81 (81)	23 (23)	6 (6)	276 (276)	0 (0)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
			人		人		人			
	事 務 職 員		158 (158)		112 (142)		270 (300)			
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)		3 (3)		13 (13)		他図書館委託スタッフ39人	
そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
	計	168 (168)		115 (145)		283 (313)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	167,415.30 m ²	0 m ²	0 m ²	167,415.30 m ²					
	運 動 場 用 地	59,142.06 m ²	0 m ²	0 m ²	59,142.06 m ²					
	小 計	226,557.36 m ²	0 m ²	0 m ²	226,557.36 m ²					
	そ の 他	126,097.07 m ²	0 m ²	0 m ²	126,097.07 m ²					
合 計	352,654.43 m ²	0 m ²	0 m ²	352,654.43 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		150,453.56 m ² (150,453.56 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	150,453.56 m ² (150,453.56 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	99室	40室	186室	11室 (補助職員8人)	12室 (補助職員4人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		情報学部	データサイエンス学科	21 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	[大学全体での共用分] (図書) 1,047,419冊 (雑誌) 14,654種 (電子ジャーナル) 3,929点 (視聴覚資料) 16,576点 機械・器具、標本は 学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数		
	情報学部 データサイエンス学科	138,328 [61,207] (138,328 [61,207])	29,962 [29,826] (29,962 [29,826])	29,753 [29,694] (29,753 [29,694])	75 (75)	3,017 (3,017)	84 (84)			
	計	138,328 [61,207] (138,328 [61,207])	29,962 [29,826] (29,962 [29,826])	29,753 [29,694] (29,753 [29,694])	75 (75)	3,017 (3,017)	84 (84)			
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		17,571.54 m ²		1,146	1,522,222					
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
		9,197.65 m ²		野球場2面、サッカー場1面、ラグビー場1面、トラック1面ほか						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	図書購入費には 電子ジャーナル・ データベースの整備 費（運用コスト費を 含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		2,008千円	2,008千円	2,008千円	2,008千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		572千円	572千円	572千円	572千円	－千円	－千円	
		図書購入費	0千円	16,328千円	16,328千円	16,328千円	16,328千円	－千円	－千円	
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	－千円	－千円		
	学生1人当り納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
	1,484千円	1,204千円	1,204千円	1,204千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、私立大学経常費補助金及び資産運用収入等							

	大学の名称		東北学院大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
既設大学等の状況	文学部	年	人	年次人	人		1.02			
	英文学科	4	180	2年次6 3年次12	762	学士(文学)	1.01	昭和39年度		
	総合人文学科	4	50	3年次2	204	学士(文学)	1.04	平成23年度		
	歴史学科	4	170	2年次2 3年次3	692	学士(文学)	1.02	平成17年度		
	教育学科	4	50	—	200	学士(教育学)	1.05	平成30年度		
	経済学部						1.02			
	経済学科	4	440	2年次6 3年次9	1,796	学士(経済学)	1.01	昭和39年度	【文、経済、経営、法学部】 (1・2年次) 宮城県仙台市泉区天神沢二丁目1番1号	
	共生社会経済学科	4	187	2年次4 3年次3	766	学士(経済学)	1.04	平成21年度	(3・4年次) 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号	
	経営学部						1.02			
	経営学科	4	341	2年次6 3年次8	1,398	学士(経営学)	1.02	平成21年度		
	法学部						1.02			
	法律学科	4	358	2年次4 3年次6	1,456	学士(法学)	1.02	昭和40年度		
	工学部						1.03			
	機械知能工学科	4	110	3年次6	452	学士(工学)	1.03	平成18年度		
電気電子工学科	4	110	3年次6	452	学士(工学)	1.02	平成29年度			
電子工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度	【工学部】 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号	平成29年度より学生募集停止(電子工学科)	
環境建設工学科	4	110	3年次5	450	学士(工学)	1.03	平成18年度			
情報基盤工学科	4	110	3年次5	450	学士(工学)	1.01	平成29年度			

既設大学等の状況	大学の名称	東北学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
	教養学部 人間科学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.02 1.01	平成17年度	【教養学部】 宮城県仙台市泉区天神沢二丁目1番1号	
	言語文化学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.02	平成17年度		
	情報科学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.02	平成17年度		
	地域構想学科	4	110	2年次 2 3年次 2	450	学士(教養学)	1.03	平成17年度		

	大学の名称	東北学院大学大学院									
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員超 過率	開設年度	所在地	備考	
既 設 大 学 等 の 状 況	文学研究科	年	人	年次 人	人						
	英語英文学専攻（博士前期課程）	2	10	-	20	修士(文学)	0.10	昭和39年度	【文、経済、経 営、法学研究科】 宮城県仙台市青葉 区土樋一丁目3番1 号		
	英語英文学専攻（博士後期課程）	3	3	-	9	博士(文学)	0.00	昭和41年度			
	ヨーロッパ文化史専攻（博士前期課程）	2	5	-	10	修士(文学)	0.30	平成9年度			
	ヨーロッパ文化史専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(文学)	0.16	平成11年度			
	アジア文化史専攻（博士前期課程）	2	5	-	10	修士(文学)	0.40	平成9年度			
	アジア文化史専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(文学)	0.50	平成11年度			
	経済学研究科										
	経済学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(経済学)	0.12	昭和42年度			
	経済学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(経済学又は商学)	0.33	昭和43年度			
	経営学研究科										
	経営学専攻（修士課程）	2	8	-	16	修士(経営学)	1.06	平成21年度			
	法学研究科										
	法学専攻（博士前期課程）	2	10	-	20	修士(法学)	0.40	昭和50年度			
	法学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(法学)	0.00	昭和54年度			
	工学研究科										
	機械工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	1.68	昭和46年度	【工学研究科】 宮城県多賀城市中 央一丁目13番1号		
	機械工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.00	昭和49年度			
	電気工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	1.18	昭和46年度			
	電気工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.50	昭和49年度			
電子工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	1.31	平成22年度				
電子工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.00	平成24年度				
環境建設工学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(工学)	0.81	平成22年度				
環境建設工学専攻（博士後期課程）	3	2	-	6	博士(工学)	0.00	平成22年度				
人間情報学研究科											
人間情報学専攻（博士前期課程）	2	8	-	16	修士(学術)	0.56	平成6年度	【人間情報学研究 科】			
人間情報学専攻（博士後期課程）	3	3	-	9	博士(学術)	0.00	平成8年度	宮城県仙台市泉区 天神沢二丁目1番1 号			
附属施設の概要	該当なし										

教育課程等の概要															
(情報学部データサイエンス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
T G ベ ー シ ン ク	人間的基礎	聖書を学ぶ	1前	2			○								兼1
		キリスト教の歴史と思想	1後	2			○								兼1
		キリスト教学A	3前・後		2			○							兼1
		キリスト教学B	3前・後		2			○							兼1
		キリスト教学C	3前・後		2			○							兼1
		キリスト教学D	3前・後		2			○							兼1
		共生社会と倫理	2前・後		2			○							兼3
		科学技術社会と倫理	2前・後		2			○							兼3
		よき社会生活のためにA（法律）	1前・後		2			○							兼1
	よき社会生活のためにB（福祉）	1前・後		2			○							兼1	
	よき社会生活のためにC（健康）	1前・後		2			○							兼2	
	知的基礎	リーディング&ライティング	1前・後		2			○							兼1
		クリティカル・シンキング	1前・後		2			○							兼1
		情報リテラシー	1前・後	2				○		1					
		統計的思考の基礎	1前・後		2			○							兼1
		科学的思考の基礎	1前・後		2			○		3	2	1			
	課題探究	キャリア形成の探究	1前		2			○							兼1
		東北学院史の探究	3前・後		2			○							兼1
		データ活用による探究	2前・後		2			○							兼2
		地域ボランティア活動の探究	1前・後		2			○				1			
		地域課題の探究	2前・後		2			○				1			
		課題探究演習	1後		2				○						兼2
	人文系	哲学	1前・後		2			○							兼1
		芸術論	1前・後		2			○							兼1
		文化の歴史	1前・後		2			○							兼1
		音楽	1前・後		2			○							兼1
		倫理学	1前・後		2			○							兼1
文学		1前・後		2			○							兼1	
歴史学		1前・後		2			○							兼1	
文化人類学		1前・後		2			○							兼1	
言語論		1前・後		2			○							兼1	
社会系		心理学	1前・後		2			○							兼9
	社会学	1前・後		2			○		2	1				兼1	
	経営学	1前・後		2			○							兼2	
	経済学	1前・後		2			○							兼4	
	法学	1前・後		2			○							兼1	
	日本国憲法	1前・後		2			○							兼1	
	現代の政治	1前・後		2			○							兼1	
	地理学	1前・後		2			○							兼3	
	社会福祉論	1前・後		2			○							兼4	
	ジェンダー論	1前・後		2			○							兼1	
	東北地域論	1前・後		2			○							兼3	
	自然系	数理の科学	1前・後		2			○		1	5				
記号論理学		1前・後		2			○							兼1	
生命の科学		1前・後		2			○		1	1					
環境の科学		1前・後		2			○							兼2	
自然の科学		1前・後		2			○			1					
先端科学と技術		1前・後		2			○							兼3	
AI社会の基礎		1前・後		2			○		3		1				
小計（49科目）	—	6	92	0			—	8	8	1	0	0	兼64	—	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(情報学部データサイエンス学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
第1類	英語ⅠA	1前	1			○								兼1
	英語ⅠB	1後	1			○								兼1
	英語ⅡA	2前	1			○								兼1
	英語ⅡB	2後	1			○								兼1
外国語科目 第2類	ドイツ語ⅠA	1前		2		○								兼1
	フランス語ⅠA	1前		2		○								兼2
	中国語ⅠA	1前		2		○								兼1
	韓国・朝鮮語ⅠA	1前		2		○								兼1
	ドイツ語ⅠB	1後		2		○								兼1
	フランス語ⅠB	1後		2		○								兼2
	中国語ⅠB	1後		2		○								兼1
	韓国・朝鮮語ⅠB	1後		2		○								兼1
	ドイツ語ⅡA	2前		1		○								兼1
	フランス語ⅡA	2前		1		○								兼2
	中国語ⅡA	2前		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語ⅡA	2前		1		○								兼1
	ドイツ語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	フランス語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	中国語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語コミュニケーションA	2前		1		○								兼1
	ドイツ語ⅡB	2後		1		○								兼1
	フランス語ⅡB	2後		1		○								兼2
	中国語ⅡB	2後		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語ⅡB	2後		1		○								兼1
	ドイツ語コミュニケーションB	2後		1		○								兼1
	フランス語コミュニケーションB	2後		1		○								兼2
	中国語コミュニケーションB	2後		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語コミュニケーションB	2後		1		○								兼1
	ドイツ語ⅢA	3前		1		○								兼1
	フランス語ⅢA	3前		1		○								兼2
	中国語ⅢA	3前		1		○								兼1
	韓国・朝鮮語ⅢA	3前		1		○								兼1
ドイツ語ⅢB	3後		1		○								兼1	
フランス語ⅢB	3後		1		○								兼2	
中国語ⅢB	3後		1		○								兼1	
韓国・朝鮮語ⅢB	3後		1		○								兼1	
第3類	ベーシック英語	1前			1	○								兼1
	英語コミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	英語ⅢA	3前		1		○								兼1
	英語ⅢB	3後		1		○								兼1
	小計（40科目）	—	4	44	1		—		0	0	0	0	0	兼12

教育課程等の概要																
(情報学部データサイエンス学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
保健 科目 体育	スポーツ実技A	1前・後		1				○						兼1		
	スポーツ実技B	1前・後		1				○						兼1		
	体育講義	1前・後		2		○								兼1		
	小計(3科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—	
留 学 科 目	海外研究A	2通		4		○								兼1	集中	
	海外研究B	1後		2		○								兼1	集中	
	海外研究C	1後		1		○								兼1	集中	
	小計(3科目)	—	0	7	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—	
帰 外 国 人 生 人 科 目 及 目 び	日本語ⅠA	1前		1		○								兼1		
	日本語ⅠB	1後		1		○								兼1		
	日本語ⅡA	2前		1		○								兼1		
	日本語ⅡB	2後		1		○								兼1		
	小計(4科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—	
専 門 基 盤 科 目	フレッシュパーソンセミナー	1前	2			○			4	2					オムニバス	
	情報学演習A	3前	2				○		11	9	1					
	情報学演習B	3後	2				○		11	9	1					
	総合研究(卒研課題)A	4前	2				○		11	9	1					
	総合研究(卒研課題)B	4後	2				○		11	9	1					
	数 理	基礎数学	1前		2		○				2					
		基礎統計学	1前	2			○				1					
		応用統計学	1後		2		○			1	1					
		線形代数学入門	1後		2		○			1	1					
		線形代数学A	2前		2		○			1						
		微分積分学A	1後		2		○				2					
		微分方程式	2後		2		○				1					
	情 報	情報社会と情報倫理	1前	2			○				1	1				
		コンピュータ科学	1後	2			○			2						
		プログラミング概論	1後	2			○			1	1					
		プログラミング基礎	2前		2		○			1	1					
		情報理論基礎	2前	2			○			1						
		データサイエンスA	2前	2			○			1	1					
		人工知能概論	2後		2		○			1						
		データサイエンスB	3前		2		○			1						
	社 会	社会調査基礎論	1後	2			○			1	1					
		社会調査法	2前		2		○			1						
		情報活用とデジタルヒューマニティーズ	1前		2		○			2						オムニバス
		オープンデータの活用とデータの可視化	2前	2			○					1				
		経営学概論	1後	2			○								兼1	
		ファシリテーション論	2前		2		○					1				
		プロジェクトマネジメントと組織論	3後		2		○								兼1	
小計(27科目)		—	28	26	0	—			11	9	1	0	0	兼2	—	

教育課程等の概要															
(情報学部データサイエンス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
数理	集合論	1前		2		○				1					兼1 兼1 兼1
	線形代数学B	2後		2		○									
	微分積分学B	2前		2		○				1					
	確率・統計	3前		2		○				1					
	解析学A	2後		2		○									
	解析学B	3前		2		○									
	代数学A	3前		2		○				1					
	代数学B	3後		2		○				1					
	幾何学A	3前		2		○			1						
	幾何学B	3後		2		○			1						
	数理解情報学A	2後		2		○				1					
	数理解情報学B	3前		2		○				1					
	複素関数	3前		2		○				1					
	フーリエ解析	3前		2		○				1					
	数学とコンピュータ	2後		2		○				1					
	感覚知覚情報論A	3前		2		○			1						
	感覚知覚情報論B	3後		2		○			1						
自然情報科学	2前		2		○									兼1	
専門科目 情報	アルゴリズムとデータ構造	2前		2		○			1						兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス・共同（一部） 兼1
	プログラミング応用	2後		2		○			1						
	機械学習	3前		2		○			1						
	ソフトウェア開発論	3後		2		○			1						
	情報通信ネットワーク基礎論	2後		2		○			1						
	情報通信ネットワーク運用論	3前		2		○				1					
	データベースシステム	3後		2		○									
	ウェブサイト構築法	2後		2		○			1						
	デジタルメディア表現と技術A	3前		2		○			1						
	デジタルメディア表現と技術B	3後		2		○				1					
	デジタルメディア制作	4前		2		○									
	情報サービスとIoT	4前		2		○				1					
	モデル化とシミュレーション	2後		2		○			1	1					
情報と職業	3前		2		○										
社会	社会統計学A	2前		2		○			1						共同 共同 オムニバス オムニバス・共同（一部） 兼1 兼1
	社会統計学B	2後		2		○			1						
	社会調査実習A	2前		2				○	1	1					
	社会調査実習B	2後		2				○	1	1					
	多変量データ分析法	3後		2				○	1						
	ゲームスタディーズ	2前		2		○				1					
	社会ネットワーク基礎論	2後		2		○			1	2					
	数理社会学	3後		2		○			1						
	テキストマイニング	3前		2		○			2						
	情報とビジネス	2後		2		○									
	情報と地域連携	3前		2		○					1				
	マーケティングリサーチ	3前		2		○									
	情報と防災・福祉	3後		2		○					1				
小計（45科目）	—		0	90	0			—	10	8	1	0	0	兼7	—

教育課程等の概要															
(情報学部データサイエンス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
免許および資格関係科目	教職等に関する科目	教育基礎論	1前	2		○									兼1
		現代教職論	1前・後	2		○									兼1
		教育の制度と経営	1後	2		○									兼1
		教育心理学	2前・後	2		○									兼2
		特別支援教育論	3前・後	2		○									兼1
		教育課程論	2前	2		○									兼1
		道徳教育の理論と方法	2前・後	2		○									兼1
		特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	3前・後	2		○									兼2
		教育の方法と技術	2前・後	2		○									兼1
		ICT活用の理論と方法	3前・後	2		○									兼1
		生徒指導・進路指導の理論と方法	2前・後	2		○									兼2
		教育相談の理論と方法	2前・後	2		○									兼1
		数学科教育法（概論）	2後	2		○					1				
		数学科教育法（理論）	3前	2		○					1				
		数学科教育法（実践）	3後	2		○					1				
		数学科教育法（応用）	3後	2		○					1				
		情報科教育法（概論・理論）	3前	2		○					1				
		情報科教育法（実践・応用）	3後	2		○					1				
		教育実習Ⅰ	4通	3						○	2				
		教育実習Ⅱ	4通	2						○	2				
		教職実践演習（中・高）	4後	2					○						兼7
		介護体験実習	3通	2						○					兼1
小計（22科目）		—	0	45	0		—		2	1	0	0	0	兼11	
合計（193科目）		—	38	312	1		—		11	9	1	0	0	兼93	
学位又は称号	学士（情報学）		学位又は学科の分野				工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>教養教育科目から34単位、外国語科目から4単位、専門基盤科目から34単位、専門科目から34単位、その他選択科目から18単位以上を修得し、124単位以上修得すること。</p> <p>なお、教養教育科目の選択科目のうち、TGベーシック区分の「キリスト教学A」、「キリスト教学B」、「キリスト教学C」、「キリスト教学D」から2単位選択必修、「共生社会と倫理」、「科学技術社会と倫理」から2単位選択必修、「よき社会生活のためにA（法律）」、「よき社会生活のためにB（福祉）」、「よき社会生活のためにC（健康）」から2単位選択必修、「リーディング&ライティング」、「クリティカル・シンキング」から2単位選択必修、「統計的思考の基礎」、「科学的思考の基礎」から2単位選択必修、課題探究区分から6単位選択必修、共通教養科目区分の人文系区分から4単位選択必修、社会系区分から4単位選択必修、自然系区分から4単位選択必修とする。</p> <p>【履修登録上の制限】 1年間に履修登録できる単位数の上限は、第1学年次から第3学年次を40単位、第4学年次を46単位とする。ただし、資格科目については上限を超えて履修することができる。</p>								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要															
（工学部環境建設工学科）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	T G ベーシック	人間的基礎	聖書を学ぶ	1前	2		○								兼2
		キリスト教の歴史と思想	1後	2		○									兼1
		キリスト教学A（キリスト教と倫理）	3前・後		2		○								兼1
		キリスト教学B（キリスト教と宗教）	3前・後		2		○								兼1
		キリスト教学C（キリスト教と文化）	3前・後		2		○								兼1
		キリスト教学D（キリスト教と現代社会）	3前・後		2		○								兼1
		市民社会を生きる	1前		2		○								兼1
		地球社会を生きる	1前		2		○								兼1
		科学技術社会を生きる	1前		2		○								兼1
	キャリア形成と大学生活	1前		2		○								兼1	
	知的基礎	クリティカル・シンキング	1前		2		○								兼1
		教理的思考の基礎	1前		2		○								兼1
		統計的思考の基礎	1前		2		○								兼1
		科学的思考の基礎	1前		2		○								兼1
		情報化社会の基礎	1前		2		○								兼2
		メディア・リテラシー	1前		2		○								兼1
		読解・作文の技法	1後		2		○								兼1
		研究・発表の技法	1後	2			○			6	1				オムニバス
	人文社会	哲学	2前		2		○								兼1
		芸術論	1前		2		○								兼1
		歴史学	2前		2		○								兼1
		心理学	2前		2		○								兼1
		社会学	2前		2		○								兼1
		経済学	2前		2		○								兼1
		経営学	2後		2		○								兼1
		法学	2後		2		○								兼1
		日本国憲法	1後		2		○								兼1
東北地域論		2後		2		○								兼1	
東北学院の歴史		3後		2		○								兼1	
自然科学		健康の科学	2後		2		○								兼2
	生命の科学	1後		2		○			1					オムニバス	
	情報リテラシー	1前	2			○			2					オムニバス・共同（一部）	
	フレッシュパーソンセミナー	1前	1			○			3	3					
	基礎数学演習	1後	1				○		1					兼1	
	基礎物理演習	1前	1				○							兼3	
	基礎化学演習	1前		1			○		1					兼1	
	技術者倫理	1後	2			○								兼1	
	知的所有権	3前		2		○								兼1	
	小計（38科目）	—	13	59	0	—	—	—	9	4	0	0	0	兼30	—
地域教育科目	震災と復興	1前		2		○								兼1	
	地域の課題Ⅰ	2前	2			○								兼4	
	地域の課題Ⅱ	2後		2		○								兼3	
	地域課題演習	3通		4			○							兼2	
	小計（4科目）	—	2	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4	集中

教育課程等の概要															
(工学部環境建設工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	第1類	英語ⅠA	1前	1			○								兼6
		英語ⅠB	1後	1			○								兼6
		英語ⅡA	2前	1			○								兼7
		英語ⅡB	2後	1			○								兼7
		英語コミュニケーションズ	2後		2			○							兼2
	第2類	ドイツ語	1前		2			○							兼1
		フランス語	1後		2			○							兼1
		中国語	1前		2			○							兼1
		韓国・朝鮮語	1後		2			○							兼1
	第3類	ベーシック英語	1前			1		○							兼1
		英語Ⅲ	3前			1		○							兼3
小計(11科目)		—	4	10	2	—			0	0	0	0	0	兼20	
育保科健目体	体育講義	1後		2			○							兼1	
	スポーツ実技	1通		2										兼2	
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼3	
外国人留学生科目	第1類	日本事情A	1前・後		2		○								兼1
		日本事情B	1前・後		2		○								兼1
		日本事情C	1前・後		2		○								兼1
	第2類	日本語ⅠA	1前		1		○								兼1
		日本語ⅠB	1後		1		○								兼1
		日本語ⅡA	2前		1		○								兼1
		日本語ⅡB	2後		1		○								兼1
小計(7科目)		—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼5	
学部共通専門科目	物理学Ⅰ	1後	2			○								兼2	
	物理学Ⅱ	2前		2		○								兼1	
	微分積分Ⅰ	1前	2			○								兼3	
	微分積分Ⅱ	1後	2			○								兼2	
	線形代数学	1後	2			○								兼2	
	自然科学実験ファンダメンタルズ	1前		2						○				兼5	
	微分方程式	2前		2		○								兼1	
	フーリエ解析	2後		2		○								兼1	
	確率統計学	2後		2		○								兼1	
	プログラミング基礎	2前	2			○				1					
	プログラミング応用	2後		2		○				1					
	工業英語	3後		2		○								兼1	
	工学総合演習Ⅰ	2後	1				○			6					
	工学総合演習Ⅱ	3前	1				○			2	3				
	ジュニアセミナー	3後	2			○				9	4				
	卒業研究Ⅰ	4前	3				○			10	4			集中	
	卒業研究Ⅱ	4後	3				○			10	4			集中	
	学外見学	3後		1						2				集中・共同	
	インターンシップ	3後		1						3	3			集中・共同	
	キャリア・デザイン	3前		2		○				6				オムニバス	
	海外研究Ⅰ	2前		2		○								兼1	
	海外研究Ⅱ	2後		2		○								兼1	
小計(22科目)		—	20	22	0	—			11	4	0	0	0	兼12	

教育課程等の概要															
(工学部環境建設工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科専門科目	必修科目	力学および演習	1後	3			○								
		環境建設基礎数学演習	1前	1				○		1	1				兼1
		環境建設計画	2後	2			○								兼1
		構造力学Iおよび演習	2前	3			○				1				
		水理学I	2前	2			○				1				
		地盤力学I	2後	2			○			1					
		コンクリート工学	2後	2			○			1					
		環境工学I	2前	2			○								兼1
		構造力学II	2後	2			○			1					兼1
		地盤力学II	3前	2			○								
		鉄筋コンクリート工学	3前	2			○			1					
		測量学I	1前	2			○			1					
		環境建設工学総合演習	3後	1					○	4	2				オムニバス オムニバス・共同
		環境建設工学実験	3前	2					○	4	1				兼3
	環境建設工学設計製図	3後	2				○		2						
	環境土木コース専門科目	専門基礎・基盤科目	水理学II	2後		2		○			1				
			環境工学II	2後		2		○		1					
			上下水道工学	3前		2		○			1				
			測量学II	1後		2		○				1			兼1 兼8 共同
			測量実習製図	2前		2		○							
			地震工学I	3後		2		○			1				兼1
			都市計画	2後		2		○							
	交通工学	3前		2		○			1					兼4	
	CAD演習	3前		1				○						オムニバス・共同	
	環境・社会基盤工学科目	環境・社会基盤工学科目	地震工学II	4前		2		○			1				
			構造力学III	3前		2		○			1				
			コンクリートメンテナンス工学	3後		2		○			1				
			鋼構造工学	3前		2		○			1				
			河川港湾工学	3後		2		○							兼2
			環境の化学	2後		2		○			1				オムニバス
			環境生物学	3後		2		○			1				
			環境保全工学	3後		2		○			1				
			応用水理学	3前		2		○				1			
専門関連科目	専門関連科目	施工法および施工管理	4前		2		○							兼1	
		建設マネジメント	4前		2		○		1					兼2 オムニバス・共同	

教育課程等の概要																	
(工学部環境建設工学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学科専門科目	建築設計	建築設計製図Ⅰ	2前	2			○				1				兼2	共同	
		建築設計製図Ⅱ	2後	3			○				1				兼1	共同	
		建築設計製図Ⅲ	3前	2			○			1	1				兼1	共同	
		建築設計製図Ⅳ	3後		3		○			1					兼1	共同	
	建築コース専門科目	建築計画	建築計画Ⅰ	2前	2			○			1						
			建築計画Ⅱ	2後	2			○				1					
			建築計画Ⅲ	3前		2		○				1					
			住居計画	2後		2		○			1						
			西洋・近代建築史	3前		2		○				1					
			日本建築史	3後		2		○				1					
	建築環境工学	建築環境工学	2前	2			○			1							
		建築環境計画	3前		2		○			1							
	建築設備	建築設備	2後	2			○			1							
		建築設備計画	3後		2		○			1							
	建築コース専門科目	構造力学	力学および演習	1後	3			○			1	1					
			構造力学Ⅰおよび演習	2前		3		○			1						
			構造力学Ⅱ	2後		2		○			1						
			建築構造力学	3後	2			○			1						
			地震工学Ⅰ	3後		2		○			1						
		建築一般	建築構法	2前	2			○								兼1	
鉄筋コンクリート工学			3前		2		○			1							
建築材料		鋼構造工学	3前		2		○			1							
		建築材料学	2前	2			○								兼2	オムニバス	
建築生産		コンクリート工学	2後		2		○			1							
	生産管理	3前		2		○			1								
建築法規	施工法および施工管理	4前		2		○								兼1			
	建築法規	3後	2			○				2					オムニバス		
建築関連	測量学Ⅰ	1前	2			○			1								
	測量学Ⅱ	1後		2		○								兼1			
	環境建設基礎数学演習	1前	1					○	1					兼1	共同		
	測量実習製図	2前		2		○				1				兼8	共同		
	都市計画	2後		2		○								兼1			
	交通工学	3前		2		○			1								
建築関連	CAD演習	3前		1				○						兼4	オムニバス・共同		
	特別講義	1前・後		2		○			1						集中		
関連科目	小計(70科目)	—	59	82	0			—	11	4	0	0	0	兼32	—		
に許教育 関状育 目すの職 る教員 科科免	工業技術概論	4前		2		○								兼1			
	職業指導Ⅰ	4前		2		○								兼1			
	職業指導Ⅱ	4後		2		○								兼1			
	小計(3科目)	—	0	6	0			—	0	0	0	0	0	兼2	—		

教育課程等の概要															
（工学部環境建設工学科）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職等に関する科目	現代教職論	1前・後		2		○								兼1	
	教育基礎論	1前		2		○								兼1	
	教育の制度と経営	1後		2		○								兼1	
	教育心理学	2前・後		2		○								兼2 オムニバス	
	教育課程論	2前		2		○								兼1 集中	
	教育の方法と技術	2前・後		2		○								兼1	
	教育相談の理論と方法	2前・後		2		○								兼1	
	生徒指導・進路指導の理論と方法	2前・後		2		○								兼1	
	工業科教育法（概論・理論）	3前		2		○								兼1	
	工業科教育法（実践・応用）	3後		2		○								兼1	
	特別支援教育論	3前・後		2		○								兼1	
	特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	3前・後		2		○								兼2 集中・オムニバス	
	教育実習 I	4通		3				○						兼1 集中	
	教職実践演習（中・高）	4後		2			○							兼2 オムニバス	
小計（14科目）	—		0	29	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼13 —	
合計（171科目）		—	98	230	2	—	—	—	11	4	0	0	0	兼115 —	
学位又は称号 学士（工学）			学位又は学科の分野					工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
教養教育科目38単位、地域教育科目2単位、外国語科目4単位、学部共通専門科目28単位、学科専門科目52単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 【学年時履修登録上限（東北学院大学工学部履修細則）】 第4条 各学年に、履修登録できる卒業単位に算入される単位数の上限は、次の各号に定める区分に応じ、当該各号に定めたとおりにする。ただし、第8条第4号の科目については、これらの単位数に算入しない。 (1) 1年次 44単位 (2) 2年次 44単位 (3) 3年次 44単位 (4) 4年次 48単位 2 前項の規定にかかわらず、編入学生、転学部学生及び再入学生は、必要な指導を経たうえで、3年次に48単位まで履修登録することができる。 3 第1項の規定にかかわらず、外国語科目第3類、教育職員免許状の教科に関する科目及び教職等に関する科目については、卒業単位に含めない。 第8条 授業科目は、次の各号に掲げる名称に応じ当該各号に定めるものを意味する。 (1) 必修科目（所属する学科において必ず修得しなければならない科目） (2) 選択必修科目（指定された科目から、定められた単位数を修得しなければならない科目） (3) 選択科目（学生が自由に選択修得する科目） (4) 教育職員免許状の教科に関する科目、教職等に関する科目（修得しても卒業所要単位に含まれない科目）							1 学年の学期区分							2期	
							1 学期の授業期間							15週	
							1 時限の授業時間							90分	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 T G ベーシック 人間的基礎	聖書を学ぶ	本授業は、旧新約聖書の構成と内容の概略を学ぶことを目指している。聖書が書かれた歴史的背景とその思想を正確に捉え、聖書の成立事情及び各文書の文学上の性格を理解する。聖書のメッセージを理解して、それを正しく受け取るにより、よく生きようとする態度を学ぶ。本授業においては、(1)聖書の内容に親しみ、聖書の箇所を正しく開くことができる、(2)聖書の基本的内容(メッセージ)を理解し説明できる、ことを目標とする。	
	キリスト教の歴史と思想	本授業は、キリスト教の歴史の概略を学び、キリスト教の基本的な考え方、その思想を学ぶことを目指している。キリスト教史における様々な歴史的出来事を学び、その意義を正確に捉えるだけではなく、キリスト教に生きた先人達の考え方・生き方から学ぶことを通して、よく生きようとする態度を身に付ける。本授業では、(1)キリスト教の歴史を理解し、説明できる、(2)キリスト教の基本的な考え方を理解し、説明できる、(3)キリスト教に生きた先人達の考え方・生き方を理解し説明できる、ことを目標とする。	
	キリスト教学A	新約聖書、とりわけイエスとパウロに関する伝承を読み取ることを通して、その言葉と行いを理解するとともに、比較宗教学の手法を援用することで日本の古典(古事記)やギリシャ神話との比較を行いつつ、それらキリスト教を含む古代の諸宗教の教説が、どのような歴史的変遷を経て現代社会の様々な諸問題、とりわけ倫理観やジェンダー理解に影響を与えているかを考察する。本授業では、(1)聖書を正確に読み取り、キリスト教に関する基礎的知識を身に付けること、(2)現代社会の様々な問題、とりわけ倫理的な問題を、聖書や他の諸宗教神話などの視点を通して歴史的に考察することができること、を目標とする。	
	キリスト教学B	「スピリチャリティ(霊性)」という言葉、最近頻繁に聞く。ユダヤ・キリスト教では、目には見えなく、また理性では理解できない、いわゆる「スピリチュアル(霊的)」な存在や出来事を重んじる伝統があり、それは日本における諸宗教も同じである。本授業ではユダヤ・キリスト教と日本の霊性を詳しく検討し、両者の相違点や類似性を明らかにし、諸宗教の霊性の内実を確かめたい。同時に、現代世界における「スピリチャリティ」の意義も考えたい。授業では映画などの様々な視聴覚教材を用いて、分かりやすく説明することに努める。本授業では、(1)諸宗教における「スピリチャリティ」の歴史的意義を理解し、ユダヤ・キリスト教と日本の宗教を様々な視点から捉え直すことができる、(2)「スピリチャリティ」の価値と同時にその危険性も合わせ考察することができる、(3)「キリスト教学A」で学んだキリスト教に関する基礎的知識を本授業によってさらに肉付けし、西洋社会と文化の基盤を築くキリスト教の知識を自分のものにすることができる、ことを目標とする。	
	キリスト教学C	なぜ日本でキリスト教が広まらないのか。本授業ではこの問い掛けを中心に置きながら、キリスト教と日本の文化の関わりについて考える。ユダヤ・キリスト教と日本の文化を詳しく検討し、両者の相違点や類似性を明らかにする。本授業では、(1)日本におけるキリスト教の歴史について説明できる、(2)日本人の宗教観やその宗教的特性について理解する、(3)日本の文化的背景とキリスト教の関係について自分の言葉で説明できる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（情報学部データサイエンス学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 T G ベ ー シ ン ク 人 間 的 基 礎	キリスト教学D	現代に生きる私たちに、聖書が何を伝えようとしているのかを理解することが本授業の目的である。平和とは何か、平等とは何か、格差をどのように乗り越えるべきか、など私たちが抱く問いに聖書がどのように答えているか参加者が理解できるようにする。本授業ではイエスとパウロに関する伝承を読み取ることを通して、その言葉と行いを理解し、現代社会の様々な諸問題を彼らの視点を通して考えたい。授業では映画などの様々な視聴覚教材を用いて、分かりやすく説明することに努める。本授業では、(1)聖書を正確に読み取り、キリスト教に関する基礎的知識を自分のものにすることができる、(2)本授業を通して、現代社会の様々な問題を聖書の視点を通して考察することができる、(3)本授業を通して聖書に関して共感する点、また受け入れがたい点を自分の言葉で正確に説明することができる、ことを目標とする。	
	共生社会と倫理	本授業は、経済のグローバル化に伴い急速に到来した共生社会とは何か、を地域社会の持続的発展との関係という視点から考察することをテーマとする。前半ではグローバル化の進展を検討しながらその特徴を明らかにしたうえで、共生社会の基礎である価値観・倫理観との関連性について明白にする。後半では地域社会の特性を活かす共生社会の仕組みやあり方を検討する。そして共生社会を生きていくためにグローバル化との関わりや社会の多様性と格差は正・持続的発展・地域社会との両立など諸問題を理解する力を養成する。本授業では、共生社会の意味とその特徴を理解できるようになることを目標とする。なお、本授業は講義形式で行う。	
	科学技術社会と倫理	本授業のテーマは現代社会と科学技術の関わり及びその活用における倫理的側面について理解し、考えることである。産業革命から始まり、発展してきた科学技術は我々の生活を便利にかつ豊かにしてきた。機械技術は高速大量の輸送や大量生産を可能にし、電気電子技術は便利なエネルギーの供給、通信や機器の高度化で現代の情報化社会を支え、土木建築技術で生活環境が拡がり、快適になった。その一方で、エネルギー消費や公害などの諸問題、不適切な運用などの負の側面、倫理的課題もまた併せて考える必要がある。本授業においては、社会を支える科学技術を理解し、それとの関わり方について正しい判断ができるようになることを目標とする。	
	よき社会生活のためにA （法律）	本授業のテーマは、大学生が社会生活を送るにあたり求められる重要な法的知識を、具体的事例を用いて習得することである。本授業においては、具体的な法的問題や身近な法的トラブルを素材にして、解決策を検討する。これらの課題解決を考える過程において、大学生が社会生活を送るうえで必要となる法的知識や法的な考え方を講義形式で解説する。また一方的な講義のみならず、一部アクティブ・ラーニングの方式も取り入れ、法に関する考え方をさらに深めるようにする。したがって本授業においては、受講生が、社会において法が果たしている役割を理解できるとともに、法的問題を自らの力で考えることができることを達成目標とする。	
	よき社会生活のためにB （福祉）	近年、個人の生き方が多様化する中、一人一人の生き方に合ったお金の知識や活用方法を身に付け、家計の適切な管理や合理的な生活設計を立てることが必要不可欠となっている。本授業を通じて、受講生には自立した市民として「よき社会生活」を送ることができるよう、ライフステージ別に個人が身に付けるべき様々な知識を学ぶ。主な講義内容としては、長期的視点に立った生活設計の手法、年金制度・健康保険・雇用保険などの社会保障制度に関する基礎知識などが挙げられる。本授業の到達目標は、今後経験するであろう様々なライフイベント（就職・結婚・子育て・教育・退職など）に対して、受講生それぞれにとって最適な対応策（例えば教育においては学資保険の活用）を講じることができるようになること、である。なお本授業は講義形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 T G ベーシック	人間的基礎	よき社会生活のためにC (健康) 本授業は、知的活動や文化創造活動など人間行動の基盤となる心身の健康について学ぶ。身体の健康と心の健康について前後半に分けて各専門の教員が講義を行う。本授業では、(1)現代社会における健康の諸問題について広く関心を持つ、(2)心身の健康について、重要な知見や実践的提言を理解し説明できる、(3)獲得した知識を基に、自発的、積極的に健康行動に移す態度を持っている、ことを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (72 岡崎 勘造・73 金井 嘉宏/1回) (共同) ガイダンス (72 岡崎 勘造/7回) 「身体の健康」に関する授業では、肥満、社会、ライフステージなどと運動の関係を講義する。 (73 金井 嘉宏/7回) 「心の健康」に関する授業では、ストレス、うつ病、人間関係、生活習慣など健康との関係を取り上げ講義する。	オムニバス方式・共同 (一部)
	知的基礎	リーディング&ライティング 大学での学修に必要な読解力・作文力の修得を目的とした入門科目である。読解力(リーディングスキル)には、文献の検索・入手、文章の要約、文章の構造的な理解等を含む。作文力(ライティングスキル)には、基本的な文体・文章の表現、パラグラフの構成、レポート全体の構成等を含む。実際に文献を検索、読解し、文章を書き、互いに批評し合いながら、読解力及び文章力の向上を目指す。本授業においては、(1)基本的な読解力を身に付け、専門書を読むことができること、(2)論理的な文章、レポートを書くことができること、を目標とする。	
	知的基礎	クリティカル・シンキング 「クリティカル・シンキング」(批判的思考)とは、物事を論理的・分析的に捉える際に働く思考のことである。具体的なテーマを取り上げて討論に取り組み、その結果を交流する。討論を通して他者の論理・主張・根拠を読み解き、評価する、論理の整合性や因果関係を捉える、自分の推論プロセスを意識的に吟味する等のトレーニングを行う。本授業においては、(1)他者の意見や文章に対して批判的思考を活かし、論理的に評価することができること、(2)自身の考えを批判的に捉え、明確な根拠を持って意思決定したり、論理的な文章を作成できること、を目標とする。	
	知的基礎	情報リテラシー 本授業では、自身のコンピュータを安全に活用するために必要となる基本的なセキュリティ、インターネットを活用するために必要となる基礎知識やマナー、これからの学習活動に必要なデータ活用方法などを事務支援ツール(文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト)を用いながら実践的に学修していく。本授業の到達目標は、次のとおりとなる。(1)自身のコンピュータでは、脅威への対策を講じることができるようになる、(2)電子メールなどのコミュニケーション手段を正しく利用できる、(3)危険性や妥当性に配慮しながら、インターネット上のデータを事務支援ツールを使って実際に活用することができる、こととする。	
	知的基礎	統計的思考の基礎 この授業のテーマは「統計情報を正しく読み解く」である。私たちが様々な場面で目にする「統計」や「データ」には、正しいものもあれば間違ったものもある。また、統計数値やデータが正しくても、その意味を間違えて理解・説明してしまうことも珍しくない。この授業では、統計とデータに関する基礎的な知識の解説を講義形式で行う。本授業においては、(1)統計数値やグラフなどの情報を読み取り、その内容を正しく理解・説明することができる、(2)統計リテラシー及び社会調査リテラシーの基礎知識を理解することができる、(3)「証拠に基づく議論」の重要性を理解し、それを実践することができる、の3点を目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 T G ベーシック 課題探究	科学的思考の基礎	“科学的に考える”とは“科学の知識を身に付ける”ことではない。様々な情報に基づいて、よりよい生き方、よりよい行動が取れるように考えることを意味する。何気ない日常のことも、実は“科学的思考”と密接に関わっている。本授業では、論理や数字、グラフの見方や考え方、よりよい仮説を求める思考法などを通して、日々目にする様々な情報を正しく評価・判断する力を身に付ける。本授業では、(1)「科学的思考」を理解するとともに考えるための道具を身に付け用いることができる、(2)世の中の様々な発言や文章を批判的に捉え、「科学的」に判断することができる、(3)日常の様々な場面において「科学的」に判断し、行動することができる、ことを目標とする。	
	キャリア形成の探究	今後の大学生活において自らのキャリアを考える重要性を理解することがテーマである。キャリアとは人それぞれの勉学、仕事、生活の全てであり人生そのものである。これからの自分自身のキャリアを見つめ、アクティブラーニングを通じて様々な角度から自分と社会を探究する。本授業は、(1)自分自身の理解を深め大学生活における行動目標を立てることができる。(2)コミュニケーションの取り方の基本を学び実践できる。(3)社会や仕事、働き方に対する理解を深め、これからの人生について考えることができる。(4)自ら考え行動する力を身に付け実践できるようになる。以上4点を達成目標とし、大学生活を有意義に過ごすことができるスキルとスタンスを学ぶ授業である。	
	東北学院史の探究	本授業では、創設期である明治期から平成・令和期までの東北学院の歴史について、単なる学校史を超えて、学都仙台の形成と東北学院の発展がどのように関わってきたのか、総力戦体制下や戦後高度経済成長期における東北学院のあゆみ、といった社会情勢と時代背景との関わりを十分に踏まえて、自校史に関わる様々な論点を整理、分析する手法を体得していく。具体的には『東北学院の歴史』及び『東北学院百年史』をテキストとしながら、グループワークを主体とする課題探究型講義としていく。本授業では、(1)東北学院が地域社会の発展に果たしてきた役割について説明することができる、(2)「東北学院の歴史」探究を通じて、近現代日本の様々な事例について客観的かつ多角的な視点から自分の意見を述べるができる、ことを目標とする。	
	データ活用による探究	本授業では、各種行政機関や民間企業が公開するデータを中心に、実践的なデータ分析の手法・レポート作成法などについて学習する。Officeツールに加え、プログラミング言語Pythonや統計解析用言語Rを用いた基礎的な技術を初歩から学び、データ収集、データ形式の変換のためのプログラムの作成や、データ管理のためのデータベース利用などについて取り上げる。データ分析のための環境基盤を利用して集めたデータを様々なアプローチで分析し、課題発見や解決策法を見出す技術を養う。本授業では、データの多様な可視化などの技法を扱えるようになり、加えてデータの価値を高めるデータハンドリングについて理解・説明できるようになることを目標とする。	
	地域ボランティア活動の探究	現代社会において「ボランティア活動」という言葉の概念や対象は大きく拡大し、多種多様な実践が展開されている。本授業では、ボランティアの発展史、基礎理論、マネジメント方法などに関して、地域での具体的事例の検討やボランティア実践を取り入れながら学修を進め、地域においてボランティア活動が果たす役割の理解を深める。本授業においては、(1)ボランティア活動に関するその発展史と基礎理論を、自分の言葉で説明することができる、(2)地域におけるボランティアの役割と必要性を理解し、自分の言葉で説明することができる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
T G ベ ー シ ック	課題探究	地域課題の探究	「地域」は、特定の空間領域を指し示すだけではなく、歴史・文化や経済などが織り込まれた複雑なシステムである。本授業では、地域社会や地域企業が抱える課題を発見し、その背景となる事象を科学的に理解したうえで主体的な学修によって解決策の提案に繋げていく。本授業においては、(1)地域課題を根拠に基づいて理解し、他者に説明することができる、(2)地域の将来像と課題解決策を示し、他者に説明することができる、(3)課題解決策と大学における自身の学修との関係性を理解し、他者に説明することができる、ことを目標とする。
		課題探究演習	本授業では、複数の教員がそれぞれテーマを設定して、各25人を上限としたクラスで、学生自らが学び、学生間での質疑などを通じて、設定されたテーマに対する理解を深めていく。テーマとしては、スポーツ、生活文化、言語論、社会問題などの分野を予定している。本授業では、(1)興味関心のある内容に関連する文献を選定することができる、(2)文献の内容を理解し簡潔に要約することができる、(3)要約した内容を他の受講生に分かりやすく説明することができる、(4)これらのことを通じて自らの新たな研究テーマを見出すことができる、ことを到達目標とする。
教養教育科目	人文系 共通教養科目	哲学	人間が単なる生物であることをやめ、世界における自分の立ち位置に関心を寄せる特別な存在になってからというもの、万物の根本原理や倫理的に正しい生き方といったテーマは、人間が人間であるために欠かすことのできない中心的な主題となってきた。本授業では、古代から現代に至る様々な題材を基に、こういった事柄を問う学問である「哲学」を概観する。本授業においては、(1)哲学的な問いの立て方に親しむ、(2)哲学史上の重要人物や著作に関する知識を身に付ける、(3)複雑な議論の道筋を追うことができる、(4)身近な事柄を哲学的に捉え直し、自らの問題意識を哲学的に表現することができる、ことを目標とする。
		芸術論	本授業では、あらゆる時代の様々な物を表現する芸術作品を、確かな目で「見る」ための方法を学び、技術を培う。そのうえで、芸術作品と対峙し、歴史の中でそれを「見る」ことそのものについて考えていく。芸術論における目標は、以下の3点である。(1)芸術作品を「見る」ことそれ自体に、問題意識を持つことができる。(2)古い時代から現代まで、歴史の中で生み出された芸術作品を「見る」際に、どのような問題が伴うかを考える力を身に付ける。(3)ある時代の芸術作品を考える際に、前提としてそれ以前の時代の芸術作品について学ぶ必要性を理解することができる。
		文化の歴史	人間が育んできた多様な文化の歴史を概観しながら、その意義について考察していくことが、本授業の目的である。扱う対象は大きくは思想、芸術、文学の分野であるが、そうした伝統的な枠組みに収まらない文化現象も広く想定している。本授業の目標は、(1)文化の具体例に基づきその発展の歴史をたどることができるようになること、(2)いま見られる文化の形式を歴史的に位置付けることを通じて、将来それがどう発展するかを展望できるようになること、(3)そもそも人間はなぜそうした文化を必要として、またそこには人間のどんな本質が現れているかを考察できるようになること、である。
		音楽	音楽は人間の自然な営みから生まれ、言語や民族性に深く関わりつつ発展を続ける文化である。本授業においては、(1)有史以来の音楽観の変遷、キリスト教との関わりにおける音楽の歴史、そしていわゆる「西洋」に於ける音楽芸術の伝統を学び理解することができる。(2)特に声楽(合唱)と器楽(オルガン)の実践を通して鑑賞力を養う。(3)これら年代的に広範な広がりを持つ音楽の懐にいざなわれること、それらの持つ精神性に触れ、心動かされた内容を文章に書き表すことができる。以上をこの授業の目標としている。授業は講義形式をとるが、演奏実習の他、CD、DVD、実演等を通じて可能な限り優れた演奏を鑑賞する機会を設ける。

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 人文系 社会系	倫理学	応用倫理学における基本問題を理解することがテーマである。現代社会では、新しい科学の発展に伴って、様々な倫理的問題が生じている。本授業では、(1)具体的には何が問題となっているのか、(2)その問題の持つ倫理的な含意はどのようなものか、(3)そうした問題に対し、我々はどうに対応すれば良いのかについて、応用倫理的な視点から概観する。本授業では、応用倫理上の諸問題について、(1)関連する科学/技術の基本的なあり方が理解できるようになる、(2)概念上の混乱を取り除き、決定的な観点から問いを立てられるようになる、(3)その解決策を自分なりに検討できるようになる、ことを目標とする。	
	文学	本授業のテーマは、「自己と他者」「生と死」「家族」「恋愛」「都市」「異空間」などの観点から、日本近現代文学を解析することである。まず、テキスト内部の構造を理解し、その脈絡の中で小説の言葉の意味を把握するための手順を学ぶ。その際、内容だけではなく小説の書かれ方にも注意を向けつつ、分析概念についても学習する。次に、小説内時間や発表時期における歴史的社会的文脈を調査し、それに接続したうえで小説の言葉の意味を探っていく。これらを通じて、本授業では、小説の有する問題について小説の内外から証拠を挙げて考察できるようになることを目指す。なお、日本古典文学や日本以外の国や地域の文学を対象とする場合もある。	
	歴史学	古代史から近現代史まで各教員の専門分野に基づいた講義を通して、歴史学とは、一次史料に基づき史料批判を加え続けていく学問であることを体得していく。授業は講義形式を取り、具体的な歴史史料（文献・絵画・石碑・史跡など）を読み解きながら、歴史を明らかにする手法について学んでいくことになる。本授業では、(1)歴史学の概要について説明することができる、(2)歴史学と現代との関わりについて説明することができる、(3)歴史的な事例について客観的かつ多角的な視点から自分の意見を述べるることができる、ことを目標とする。	
	文化人類学	文化（各社会の人々が共有するものの見方・考え方）は多様である。文化人類学とは、多種多様な異文化の理解を通じて、私達にとってのアタリマエが少しもアタリマエではなかったことに気付くとともに、「人間とは何か」という問いに対し普遍的な答えを探そうとする学問である。講義では概説は最小限にし、異文化の実例を通じて、こうした文化人類学的アプローチの肝心な部分を理解できるように目指す。本授業では、(1)私達にとってのアタリマエが実はちっともアタリマエではないかもしれないと疑う姿勢を身に付けることができる、(2)「人間とは何か」を深く考えようとする態度を身に付けることができる、ことを目標とする。	
	言語論	本授業のテーマは、人間の言語に対してどのような学問的アプローチが可能かを解説することである。内容としては、言語を対象とした学問が古代ギリシア時代にまで遡る歴史を持ち、現在も様々な分野に分かれた多様性を示すことを確認したうえで、言語を対象とした科学的研究がどのようなものか、その概要を提示する。授業は講義形式で行う。本授業の達成目標は、人間の言語と動物による情報伝達の違いを理解し、日本語などを対象とした研究領域や各種言語理論に触れ、人文・社会・自然科学における言語研究の位置付けを理解するとともに、日常的な言語表現の分析などを通して、言語研究の意義を理解することである。	
	心理学	心理学は、個人の行動と心理過程を科学的に明らかにしようとする学問であり、行動の観察と記述を行う基礎研究と行動の予測と制御を目指す応用研究に分けられる。また、ミクロからマクロまで様々な単位の行動を対象とし、生理学に近い領域から社会学に近い領域まで幅広い分野を含んでいる。本授業では、心理学の各領域（知覚、動機付け、学習、発達、パーソナリティ、対人行動、集団行動、など）の研究例を紹介しながら、具体的及び視覚的に説明する。本授業においては、心理学の理論や仮説を、それらを支えている実証的な知見に基づいて説明できるとともに、現実の人間行動を、心理学の概念や用語と結びつけて説明できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 社会系	社会学	代表的な社会学の理論を基に、「ライフイベント」つまり個人が生涯に経験するいくつかのイベントについて社会的に考察する力を身に付ける。特に、学校から就職・職業生活、恋愛や友人関係、病気・看護といった、多くの人々が経験する身近なライフイベントが持つ意味を社会学や社会史の観点から見ることによって、現代の社会学理論の有効性を理解する。本授業では、身近な事例から社会的思考法の基礎を学ぶことによって、ミクロな事象とマクロな事象との関連を見つける社会的想像力を身に付けることを目標とする。なお本授業は講義形式で行う。	
	経営学	本授業は、「経営学の理論と企業経営の実際を学ぶ」をテーマとする。授業においては、経営学の理論を使って企業を分析できるようになるとともに、企業経営の実際と照らし合わせて自身のキャリアパスを描くことができることを目標とする。授業では、まず企業とは何かについてその役割や形態について学び、その後、経営学の諸学説を現実の企業経営に照らし合わせながら理解を深めていく。そして、企業経営の実際として、ケース研究により企業事例を学ぶとともに、近年の企業課題について環境経営やCSR（企業の社会的責任）などから迫っていく。授業は講義形式で行い、受講生は毎回小レポートを提出して内容の理解を深める。	
	経済学	教養科目として経済学を学修する意義の一つは、「政策や法律が、私たち市民等の個人や会社等の団体に対してどのような影響を与えるかを推測したり、評価したりするための技術を修得できる」という点である。本授業では、「消費税が上がると、教科書が現在よりも300円高くなったら、大学生の行動はどのように変わるだろうか?」「最低賃金が上がると、コンビニエンスストアの時給が100円高くなったら、大学生の行動はどのように変わるだろうか?」といったことを、筋立てて推論できるような思考力を身に付けることを目標とする。	
	法学	本授業のテーマは2つある。1つは、学生にとって身近な具体例を素材にして、常識的な考えから法的な考えへと歩みを進め、法的思考の特徴とその背景を理解することである。もう1つは、憲法、民法、刑法、労働法などの学習を通じて実定法の概要を把握することである。このようにして受講者は、身近な具体例と法の対応関係を講義形式で学ぶことで、法の体系的知識を獲得する。同時に毎回、受講生同士が議論をする機会を持ち、体系的知識の具体的な応用を学ぶ。本授業においては、各自が法学の基礎知識と思考法を修得し、法的主体として公共世界の構築に参画できるような力を身に付けることを達成目標とする。	
	日本国憲法	日本国憲法を概説することをテーマとし、講義形式で授業を進める。憲法に関わる人権や統治機構といった諸問題について、基本的な考え方を修得するという目標を達成するために、人権とは何か、国会の役割は何か、司法審査の役割は何かといった、憲法の基礎的な知識を概観したうえで、憲法に関わる諸問題を考える際の筋道について説明する。具体的には、「憲法総論（国家・立憲主義・主権・民主主義・その他の日本国憲法上の諸原理等）」「統治機構（国会・内閣・裁判所・地方自治・財政）」「人権（人権の観念・人権の主体・人権の適用範囲・違憲審査基準論・精神的自由・経済的自由・社会権・請求権等）」を扱う。	
	現代の政治	政治学から社会を視ることをテーマとする。政治学の様々な方法・研究成果に言及しながら、現代政治の多様な側面を検討する。それらとの関わりから生じる諸問題に目を向けさせ、対立する意見の中から自分の考えを持つことができるようになることを達成目標とし、現代の身近な政治現象を理解・分析するための重要かつ基本的な概念や理論について講義形式で概説する。具体的には、政治社会学の視座、政治とは、道具・装置としての概念、個人と社会一制度と社会化の視点から一、制度、社会化、青年期と産業社会、政治社会一支配性を中心に一、権力と服従、権威／権威主義、日常生活における権力作用、制度及び社会の再生産を扱う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 社会系	地理学	本授業は、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、受講生自らが論理的に考えることの重要性に力点を置いた講義を行う。高校時代に地理を学習していない受講生も想定されることから、講義では高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像を使用することで、地理学を身近な学問として感じられるような様々な工夫を取り入れる。本授業の到達目標は、(1)地理学の基礎的な知識を身に付ける、(2)様々な地域事象を地理学的な観点から見るができるようになること、である。なお本授業は講義形式で行う。	
	社会福祉論	本授業は、社会福祉の基本的枠組みを示しながら、社会福祉への興味・関心を深めてもらうことを意図する。具体的には、社会福祉の理論、歴史を中心にして、現代社会福祉の課題と展望について明らかにする。また具体的な福祉活動を紹介することで、受講生には社会福祉活動の明確なイメージを持ってもらいたい。本授業では、(1)現代における社会福祉の意義と役割について理解することができる、(2)現代における社会福祉の現状と課題について理解することができる、ことを到達目標とする。なお本授業は講義形式で行う。	
	ジェンダー論	本授業では、「近現代哲学の主体概念と女性」「新国際分業と女性」「IT技術とジェンダー」「Black Lives Matterと黒人のセクシュアリティ」「性的多様性と文学」といった領域横断的な主題から、現代社会と文化におけるジェンダーの諸問題を学ぶ。まず国内外のニュースや事例を紹介し、その背景にある性差を巡る前提を考察する。次に、その前提を批判的に理解するための概念や理論を導入する。概念と理論を深く知るため、歴史的背景を補足しながら作品（文学や映画等）を導入し、理論的に解説する。これらを通じて、本授業では、ジェンダーの諸問題を深く考えさせ、ジェンダー研究の意義を理解することを達成目標とする。	
	東北地域論	東北地方の地域経済の実態や課題を、当地域の分析のみならず、他地域（主に同規模経済の九州）との比較（農業、工業、地場産業、商業）を行いながら検討していく。これを通じて、相対的な東北地域の地域経済の特徴を明らかにしていく。また、東日本大震災からの経済復興についても、その実態と課題を明らかにして、復興の可能性についても考えていく。トピックに応じてゲストスピーカーを呼ぶことがある。本授業では、(1)東北地方の地域経済の地位を、東北地方の自然条件（主に地形と経済活動）、交通条件等から理解できるようになるだけでなく、グローバル化を踏まえた「日本レベル」という位置付けでも理解できるようになる、(2)とりわけ東北独自の産業的特色が理解できるようになる、(3)東日本大震災が東北の地域経済にいかに関与を与えたか、復興の現状と道筋についても理解・評価ができるようになる、ことを目標とする。	
	数理の科学	方程式・不等式などの取り扱いを再確認し、具体的な問題を解くことにより、その有用性について解説する。また、整数など基本的なものの性質を学ぶことを通して数理的な考え方を説明する。本授業では、(1)日常生活で出会う諸問題の中で、高校までに習った数学的手法を用いて解けるものを解こうとする態度を示すことができる、(2)そうした具体的問題を数学的に解くことができる、(3)定性的に解釈された物事を定量的、数理的に捉え直そうとする態度を示すことができる、(4)具体的問題について、定量化の工夫をすることができる、ことを目標とする。	
自然系	記号論理学	本授業のテーマとなる「論理」は、日常的な議論において重要であるだけでなく、情報科学や数学、哲学といった分野の基盤としても中心的な役割を担っている。本授業では、現代の記号論理学を学ぶことで論理に対する理解を深める。本授業においては、(1)記号論理学という学問が対象とする論理的現象の性質を正確に説明できる、(2)記号を用いた論理学の出発点となる命題論理の仕組みを理解する、(3)命題論理よりも豊かな表現力を持つ（一階）述語論理を学び、その仕組みを理解する、(4)記号論理学が現代の様々な学問分野においてどのように重要な役割を担っているのかを説明できる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 共通教養科目 自然系	生命の科学	本授業では、生命の原理であるDNAの働きを理解し、その原理から現在の地球を彩る多様な生物がどのように発展してきたかを、生物の特性である「秩序化」「再生産」「成長と発生」「反応性」「恒常性の維持」「進化・適応」と関連付けながら学習する。また、現代社会において生命の科学が我々の身の周りでもどのように応用されているかを、iPS細胞や遺伝子治療などの具体例から学んでいく。本授業では、(1)DNAとは何か説明することができる、(2)生物の多様性がどのように発展してきたか説明することができる、(3)生命活動の動的特徴を説明することができる、(4)様々な問題を生命的視点から科学的に考えることができる、(5)生命の科学と自分自身の生活との関わりが関連付けられる、ことを目標とする。	
	環境の科学	「生物が暮らす空間」としての生物圏は、地球の表層部を覆う厚さ20kmほどの薄層に過ぎない。3000万種とも推定される多様な生物とそれを包み込む環境は、46億年の時を経てどのように進化してきたのか、また、ヒトの活動は生態系にどんな影響を及ぼし、生物圏の未来にどう作用するのか。生物学・生態学の視点から、環境と生物、ヒトの関わりを考える。ヒトの活動による自然環境の激変が、大気や水、植生、食料生産、日々の暮らしに大きな影響を及ぼし、格差や貧困、紛争をも引き起こしている。人類の存続を左右する環境問題の解決に向けて、自分自身は何ができるのか、本授業を履修することによって、グローバルな視点から生物圏の実態と成立過程を理解し、その答えを模索する素地を形成することができることを目標とする。	
	自然の科学	自然科学の考え方を知り、我々の住む宇宙について正しく認識することをテーマとする。主に宇宙や身の周りの自然を題材とし、これまでの科学の発展の歴史や最新の成果についての講義を通して、理論と観測の両面からの科学的な研究の進め方や最新の知見について説明する。また、太陽や惑星など現在の我々を取り巻く天体について知ること近い将来の課題について考察する。本授業では、(1)科学的な問題や日常的な問題に対して論理的な考え方ができること、(2)宇宙の時間的・空間的な広がりを知り、その中での人類の位置を考えることができること、を目標とする。	
	先端科学と技術	本授業のテーマは、先端の科学と技術の変遷と、その発展に付随する問題や社会・環境との関わりを考え、理解することである。具体的には科学技術の変遷を背景として、現代の先端技術を幅広く、各回に個別テーマを設定して講義する。テーマとしては、自然エネルギーや燃料電池、ナノテクノロジー、ロボット、バイオテクノロジー、医療技術といった、今後の発展を見据えた技術そのものに加え、環境問題などの科学技術の発達に伴う負の側面、社会との関わりや倫理面などについて、今後の展望を含めて扱う。本授業においては、先端科学技術の展望と、エネルギー、社会、倫理、環境との関わりや諸問題を説明・議論できることを目標とする。	
	AI社会の基礎	本授業では、現代の情報化社会に至る経緯を振り返り、今後のAI社会への発展について学ぶ。特に、今後、情報化社会の基礎となるAIが持つ様々な役割を理解し、知識基盤社会の中で生活する我々に必要とされる知識を習得し倫理感を身に付ける。そのために、情報の価値など基礎的な内容から、AIの誕生と普及・ビッグデータの活用などの応用面まで広く学ぶ。本授業においては、(1)AI社会の特徴を理解し各々の個人がその構成員であることを説明できる、(2)AI社会を構成する様々なシステムの役割を説明できる、(3)AI社会の中でデータや情報を取り扱う際に必要となる基礎的な知識や技術を活用できる、ようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	第1類	英語ⅠA	本授業の目的は、日常生活や社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランス良く育成・向上させるために、各教員が選んだ教材を用いて、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、練習問題への解答などの活動を行う。入学時プレースメントテストの成績に応じたクラス編成に従い、学生の能力に応じてCEFR A1.2からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。
		英語ⅠB	本授業の目的は、「英語ⅠA」に引き続き、日常生活や社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。各教員が選んだ教材を用いて、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランス良く育成・向上させるために、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、練習問題への解答などの活動を継続する。「英語ⅠA」でのクラス編成に従い、学生の能力に応じてCEFR A2.1からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。
		英語ⅡA	本授業の目的は、社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。「英語ⅠA・ⅠB」の履修で到達した「読む・書く・聞く・話す」の4技能のレベルをさらに向上させるために、難易度を上げた教材を用いて、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、口頭発表などの活動を行う。クラス配属は「英語ⅠA・ⅠB」の学習成果を踏まえて調整され、各クラスに設定されたCEFR A2からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。
		英語ⅡB	本授業の目的は、「英語ⅡA」に引き続き、社会生活に必要な標準的英語並びに仕事や勉学に必要な専門的英語を使えるようになることを目指して、英語運用能力を伸ばすことである。「読む・書く・聞く・話す」の4技能のレベルをさらに向上させるために、難易度を上げた教材を用いて、ペアワークやグループワーク、英文の音読や内容説明、英語による質疑応答、ライティングによる意見の陳述、口頭発表などの活動を継続する。受講者は「英語ⅡA」と同じクラスに属し、各クラスに設定されたCEFR A2からB2レベルに準拠した4技能の能力獲得と維持を目標とする。
	第2類	ドイツ語ⅠA	ドイツ語文法の基礎を学ぶ。発音規則の修得から始め、動詞の現在人称変化、冠詞や名詞の格変化、前置詞、話法の助動詞程度までの文法項目を範囲とする。教科書の問題演習に加えて小テストを頻繁に繰り返すことによって、文法の基礎的知識の定着を図る。折に触れドイツの地誌や生活を紹介しながら、ドイツ文化全般についての興味関心を喚起する。発音練習と聴き取り練習も随時行う。本授業の到達目標は、(1)ドイツ語のテキストを正しく音読できるようなること、(2)ドイツ語初学者にとって最も重要な基本的文法事項を正確に理解すること、(3)旅行に必要な程度のドイツ語の聴き取りと発話ができるようになること、の3点である。
		フランス語ⅠA	フランス語の初級文法と発音を学ぶ。初学者が特につまづきやすい箇所を重点的に説明し、練習問題を解くことにより知識の定着を図る。授業で扱った文法項目に関して、毎回一定量の練習問題を宿題として課す。文法と発音の習得に並行して、よく使われる表現方法を学び日常会話への糸口とする。ヨーロッパの諸言語との類似性にも触れ、フランス語の基礎文法習得の助けとする。また、文法学習への意欲維持のために、フランスの文化や生活を適宜紹介する。本授業においては、(1)フランス語のテキストを正しく音読し、文法を理解しながら読むことができること(2)旅行に必要な程度のフランス語会話ができること、を目標とする。

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	中国語 I A	中国語（普通話）の基礎を学ぶことを目的とする。我々が中国語（普通話）を学ぼうえでの最大のネックは、皮肉にも漢字に親しみすぎている点にある。日本語として「読む」ことに慣れすぎて、外国語として「聞く」また「話す」ことに思い至らない。ならば、まずは耳と口のフォーマットから始めよう。授業は小規模クラスで行い、マンツーマンに近いスタイルで行う発声及び発音練習が中心になる。本授業では、(1)拼音の書記法が分かるようになる、(2)拼音を見て、中国語音を発声できるようになる、(3)簡単な挨拶ができるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、準4級から4級レベルの取得を目標とする。	
	韓国・朝鮮語 I A	本授業では、初めて韓国・朝鮮語を学ぶ学生を対象に、韓国・朝鮮語の文字・発音・基礎的な文法・会話を習得させる。まず、ハンダルの発音を正確に区別して聞き、発音できるようになる。次に、日常的によく使われる挨拶や相槌、私的な話題について簡単な質問を理解して、答えることができるようになる。その他、自分自身や家族、趣味、食べ物などの身近なことについて、韓国人がゆっくり話せばその言葉が理解できるようになり、自分の意見を表現できるようになる。これらを通じて、ハングル検定5級（TOPIK1級）に合格できるような「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。	
	ドイツ語 I B	「ドイツ語 I A」で学んだ内容をさらに発展させて、ドイツ語文法の基礎力の完成を目指す。修得する文法事項としては、動詞の3基本形、完了形、受動態、関係詞、接続法などが中心となる。文法力と語彙力を高める問題演習や小テスト、さらには実践的な音声教材も併用しながら、初級レベルの文法知識の定着を図る。ドイツに関するアクチュアルな情報も随時紹介する。本授業の到達目標は、(1)ドイツ語のテキストを正確かつ淀みなく音読できるようになること、(2)ドイツ文法の基礎的項目をすべて理解し説明できるようになること、(3)CEFRのA1レベル（ドイツ語検定試験4級程度）のドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語 I B	「フランス語 I A」に引き続き、フランス語の基礎文法のうちの後半部分（動詞の直説法現在形に加えて様々な時制、条件法や接続法など）を学ぶ。法の変化や時制の変化がもたらすニュアンスを敏感に感じ取れるようにしながら、より高度な読解力を養成する。授業で扱った文法項目に関しては、毎回一定量の練習問題を宿題として課し、学修事項の定着を図る。本授業においては、(1)辞書さえあれば平易なフランス語を読解できるようになること、(2)正確に発音できるようになること、(3)日常生活での定型的な言葉のやり取りができること、を目標とする。	
	中国語 I B	中国語（普通話）のレベルアップ（基礎から初級へ）を目的とする。我々が中国語（普通話）を学ぼうえでの最大のネックは、皮肉にも漢字に親しみすぎている点にある。日本語として「読む」ことに慣れすぎて、外国語として「聞く」また「話す」ことに思い至らない。ならば、まずは耳と口のフォーマットから始めよう。授業は小規模クラスで行い、マンツーマンに近いスタイルで行う会話練習が中心になる。本授業では、(1)中国語（普通話）音を聞いて、拼音に書き記せるようになる、(2)簡単な文や会話を文法に則して理解できるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、4級から3級レベルの取得を目標とする。	
	韓国・朝鮮語 I B	本授業では、「韓国・朝鮮語 I A」の履修者を対象に、比較的使用頻度の高い単語や文法を習得させる。特に、数字の理解を通して、食堂での注文や買い物、時間を約束する際に、意見を述べたり、相手の言葉が正確に理解できるようになる。そして、過去のことや未来の予定などについて話すことができ、旅行をする際には道を聞いて相手の言葉が理解できるようになる。また、目上の人に対して、基本的な敬語を用いて話し、相手の敬語が理解できるようになる。これらを通じて、ハングル検定4級（TOPIK2級）に合格できるような「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付け、更には韓国の大学に交換留学ができることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	ドイツ語ⅡA	「ドイツ語ⅠA・ⅠB」で修得した文法項目の確認と復習をしながら、中級レベルのドイツ語力養成を目指す。インターネット上の簡単な記事、子ども用百科事典、短い小説など、平易なドイツ語原文をテキストにしながら、実践的な読解力養成を目指す。また、音読の復習や語彙力のトレーニングも随時行うことによって、ドイツ語の総合的な基礎力を確実なものとする。本授業の到達目標は、(1)1年次に修得した文法項目をさらに正確に理解すること、(2)ドイツ語の原文を、辞書を使って正確に読むことができるようになること、(3)ドイツ語のサイトを自分で検索し、必要な情報を手に入れられるようになること、の3点である。	
	フランス語ⅡA	フランスの文化について紹介されたテキストを読み、基礎文法の定着を図りつつフランスの社会や歴史についての知識を深める。テキストを音読するトレーニングを繰り返し行いながら、あわせて語彙量を増やし、フランス語の総合的な基礎力を確実なものとする。本授業では、(1)テキストに書かれた内容を理解するだけでなく、フランスの文化を通して日本の社会や生活文化を相対化した視点から捉え直すことができるようになること、(2)基礎文法と語彙の力を伸ばし、平易なフランス語であれば苦勞することなく理解できるようになること、を目標とする。	
	中国語ⅡA	中国語(普通話)のレベルアップ(初級から中級へ)を目的とする。拼音が自由自在に駆使できるようになると、辞書や参考書の類も利用できるようになる。当然、自学自習の方法も多種多様化する。教育方法もまたバリエーションに富むことになる。授業は「聞く」「話す」のみならず、「読む」「書く」のレベルを織り交ぜつつ進む。授業は小規模クラスで行い、マンツーマンに近いスタイルで行う。本授業では、(1)中国語の基礎を理解できるようになる、(2)工具書の利用法を身に付けられるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅡA	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅠA・ⅠB」の履修者を対象に、中級(前半)の「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。尊敬語を用いた丁寧な依頼はもちろんのこと、適切な言葉を使って承諾したり拒否することができるようになる。興味のある分野について簡単に話したり、辞書を用いて書けるようになる。使用頻度の高い慣用句・連語や言い回しのほか、各種お知らせや説明書について、正確に理解できるようになる。韓国のニュースは、簡単な時事問題ならほとんど理解できるようになる。ハングル検定3級(TOPIK3級)に挑戦できるようになることを目指す。	
	ドイツ語コミュニケーションA	1年次に学んだドイツ語の基礎事項をベースにしながら、ドイツ語による基本的なコミュニケーション能力(聞く、話す、読む、書く)を養成する。日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、口頭練習を繰り返すことで、実践的なドイツ語力を確実に身に付け、語彙を拡大することで表現の幅を広げていく。ドイツの地誌の説明、日常生活や文化の紹介、ときにはドイツ語の歌の練習なども行う。この授業の到達目標は、(1)ドイツ語の聴き取りと発話ができるようになること、(2)ドイツ語で自己紹介ができること、(3)シチュエーションに応じた簡単なドイツ語のやりとりができること、の3点である。	
	フランス語コミュニケーションA	1年次に学んだ基礎文法をベースにしながら、会話の実践を通して、フランス語の聴解力と発信力を身に付ける。日常的な挨拶表現からはじめ、まずは平易な文法知識と語彙力を用いて自己紹介や天候、時間表現など日常的な定型表現を修得する。さらに様々な場面を設定しながら、適切な代名詞の使用などこれまでに学んだ文法知識を会話に活かす術を学んでいく。本授業においては、(1)簡単な挨拶や自己紹介ができること、(2)道順や時刻などをフランス語で説明できること、(3)平易な会話(自分の好きなことや趣味など)ができるようになること、を目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	中国語コミュニケーションA	1年次に学んだ中国語(普通話)の基礎をベースに、日常生活に必要なコミュニケーション能力(聞く、話す、読む、書く)を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、語彙を増やすことで表現の幅を広げていく。また、折に触れ、動画や歌を鑑賞し、中国(台湾を含む)の文化を多面的に理解する。本授業では、(1)中国語で自己紹介ができる、(2)シチュエーションに応じた簡単な中国語のやりとりができる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語コミュニケーションA	「コミュニケーション能力」というのは、口頭で自分の意見を伝える能力及び文章で自分の意見を論理的に伝える能力を意味する。本授業では、「韓国・朝鮮語ⅠA・ⅠB」の履修者を対象に、様々な場面での韓国語会話及び作文を練習する。特に、(1)本学を訪れる韓国人留学生と積極的に交流し、宮城県・仙台・自分の地元の有名な所を推薦したり、学校の施設や博物館・文学館・科学館・水族館などの利用方法を説明できるようになる、(2)辞書があればK-POPの歌詞が完全に、教員が指導すればドラマの基本的な表現も理解できるようになる、(3)関心のある分野について理解したり表現できるようになる、ことを目指す。	
	ドイツ語ⅡB	「ドイツ語ⅡA」で学んだことをベースに、中級レベルのドイツ語力のさらなる向上を目指す。ドイツ語の雑誌や新聞記事、学術的書物の入門書、有名な小説など、ドイツ語の原文をテキストとしながら、より高度な読解力を身に付けることが目標である。ドイツ語による文章作成練習なども随時取り入れることによって、実践的なドイツ語力も高める。本授業の到達目標は、(1)ドイツ語文法の基礎事項をすべて正確に理解すること、(2)ドイツ語で書かれた普通の文章を、辞書を使って正確に読めるようになること、(3)CEFRのA2レベル(ドイツ語検定3級程度)のドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語ⅡB	「フランス語ⅡA」に引き続き、基礎文法の復習をしながら、フランス語で書かれた平易な短編小説などを、辞書を使って読み進めていく。調べた意味の連鎖から単に意味を読み取ろうとするのではなく、学んできた文法知識に基づいて正確に文章を解釈する訓練を行う。条件法や接続法、単純過去時制、話法変換などの解説を丁寧に、初等文法で取りこぼしがちな文法事項の穴を埋めていく。本授業においては、(1)フランス語の基本文法をすべて理解できること、(2)辞書を使いこなし、フランス語で書かれた小説を正確に読めること、(3)物語世界を味わうこと、を目標とする。	
	中国語ⅡB	中国語(普通話)のレベルアップ(初級から中級へ)を目的とする。拼音が自由自在に駆使できるようになると、辞書や参考書の類も利用できるようになる。当然、自学自習の方法も多種多様化するので、教育方法もまたバリエーションに富むことになる。授業は「聞く」「話す」のみならず、「読む」「書く」にも留意しつつ進む。授業は小規模クラスで、マンツーマンに近いスタイルで行う。本授業では、(1)やや複雑高度な文型や文法事項を理解できるようになる、(2)長めの会話ができるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級の上位合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅡB	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅡA」の履修者を対象に、中級(後半)の「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。特に、日常会話だけでなく、ビジネスにおいても尊敬語を用いた丁寧な依頼はもちろん、適切な言葉を使って受諾したり拒否することができるようになる。次に、興味のある日韓の時事問題について論理的に話せたり、書けるようになる。その他、使用頻度が高い四字熟語・諺についても理解したり、比較的長い文章を読んで理解できるようになる。韓国のニュースは、教員の指導があれば理解できるようになる。ハングル検定3級(TOPIK3級)の合格、更には韓国の大学に交換留学ができることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	ドイツ語コミュニケーションB	より高度なドイツ語のコミュニケーション能力を総合的に身に付けるための練習を行う。ドイツ語の文章を読んで素早くその内容を理解する読解練習、ドイツ語での会話にナチュラルなスピードで応答する口頭練習、さらには発話力をさらに高めるトレーニングとして、ドイツ語による作文練習も多く取り入れる。この授業の到達目標は、(1)よりナチュラルなスピードのドイツ語を聴き取れるようになること、(2)ドイツ語で何かを説明したり、自分の意見を明確に表現できるようになること、(3)ドイツでの生活に必要な実践的なドイツ語運用能力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語コミュニケーションB	「フランス語コミュニケーションA」に引き続き、会話の実践を通して、フランス語の聴解力と発信力を身に付ける。直説法現在に加え、近接未来や近接過去、複合過去や単純未来など様々な時制を用いた表現を具体的な場面に即して練習していく。さらには、条件法を用いて仮定に基づくできごとを表現したり、接続法を用いて主観的感情を表現したりするなど、より高度な文法知識を適切に用いて会話に活かす術を学ぶ。本授業においては、(1)ゆっくりであれば簡単なフランス語を聞き取れるようになること、(2)過去や未来、仮定的な出来事などをフランス語で表現できるようになること、を目標とする。	
	中国語コミュニケーションB	「中国語コミュニケーションA」を引継ぎ、中国語のレベルアップ（初級から中級へ）を目的とする。日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、語彙を増やすことで表現の幅を広げていく。また、折に触れ、動画や歌を鑑賞し、中国（台湾を含む）の文化を多面的に理解する。授業は「聞く」「話す」のみならず、「読む」「書く」のレベルを織り交ぜつつ進む。本授業では、(1)日常生活のやや複雑高度な文型や文法事項を理解できるようになる、(2)長めの会話ができるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、3級の上位合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語コミュニケーションB	本授業では、「韓国・朝鮮語ⅠA・ⅠB」及び「韓国・朝鮮語コミュニケーションA」の履修者を対象に、様々な場面での韓国語会話及び作文を練習する。特に、(1)本学を訪れる韓国人留学生と積極的に交流し、日本と韓国の考え方や生活の違いについて議論したり、自分と違う考えを持つ人を説得できるようになる、(2)他の人の悩みを聞き、的確適切な言葉を用いてアドバイスできるようになる、(3)K-POPの歌詞は辞書がなくても完全に理解し、ドラマや映画は先生の説明があれば、ほとんど理解できるようになる、(4)関心のある分野について理解したり表現できるようになる、ことを目指す。	
	ドイツ語ⅢA	1、2年次に修得したドイツ語の知識を活かしながら、さらなるドイツ語力の向上を目指す。新聞の論説や雑誌のアクチュアルな記事、学術的内容の専門書、有名な古典や小説等をテキストとして、より高度な読解力を養う。また、特定のテーマについて、その内容をドイツ語で説明したり、自分の意見をドイツ語で話したり書いたりする練習も行う。この授業の到達目標は、(1)高度な文章を辞書を使って正しく読み解くことができるようになること、(2)特定のテーマについて自分の意見を正しく話したり書いたりできるようになること、(3)CEFRのB1レベル（ドイツ語検定2級程度）のドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語ⅢA	「フランス語ⅡA・ⅡB」の発展的内容となる。読む力のみならず、特に聞き取る力の向上を目指す。聞き取りは、正確に発音する力が前提となるうえ、文法知識はもとより豊富な語彙力が必要であり、その意味で総合的な語学力を身に付けなければならない。段階的に、ある程度のレベルの文章を正確に読み解く練習、そのテキストの内容を具体的コンテキストに応じて適切に理解し概略を把握する練習、理解に基づいて適切な反応を適切な表現で行う練習を重ねる。本授業においては、主に聞き取りの訓練を行うことで、読解力、語彙力、発音といった総合的な力を養うことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第2類	中国語ⅢA	1、2年次に学習した中国語(普通話)の知識と経験を活かしながら、更なる中国語力の向上を目的とする。拼音の付された語学用のテキストではなく、ネイティブの中国人が読む新聞や雑誌記事、エッセイ、小説等を、多種多様な工具書を駆使して、理解できるようにする。またweb上に流れるニュースやドラマを積極的に利用し、聞く力と話す力を涵養する。本授業では、(1)高度なテキストを正しく理解できるようになる、(2)自分の意見を中国語らしく書き、述べられるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、2級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅢA	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅡA・ⅡB」の履修者を対象に、高いレベルの「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。日常的な場面で広く用いられる会話はもちろん、指示・依頼・誘い・予定・過去の出来事など、やや特別な場面においても、相手に対し失礼のない言葉や表現を選び、十全なコミュニケーションを取れるようになる。また、平易なニュースや新聞の記事であれば、辞書がなくても理解でき、自分の意見も十分に述べられるようになる。ハングル検定準2級(TOPIK4級)に挑戦できるようになることを目指す。	
	ドイツ語ⅢB	これまでに修得したドイツ語の知識をすべて活かしながら、より高度なドイツ語力の養成を目指す。「ドイツ語ⅢA」に引き続き、新聞の論説や雑誌の記事、専門書、古典や小説等をテキストとし、またネットから入手できるアクチュアルなニュース動画等も適宜用いながら、ドイツ語の総合力をさらに高める。留学後のドイツ語力の維持や大学院進学準備にも対応できる内容としたい。この授業の到達目標は、(1)ドイツ語圏での留学生活に支障のないドイツ語力を養うこと、(2)研究に必要なレベルのドイツ語文献を正確に読解できること、(3)CEFRのB1~B2レベルのドイツ語力を身に付けること、の3点である。	
	フランス語ⅢB	「フランス語ⅢA」の内容を引き継ぎ、読み応えのあるフランス語のテキストの読解と聞き取り練習を中心に授業を進めていく。読解においては、単にフランス語の運用能力を鍛えるだけでなく、テキストの内容を深く掘り下げながらフランス文化や社会、思想などについて学ぶ。聞き取り練習においては、反復訓練を通じてネイティブスピーカーの正確な発音やリズムをも修得する。本授業においては、これら読解や聞き取りで学んだより自然な表現やより高度な表現、より多くの語彙を用いて、自らの考えを不足なく表現できるようアウトプットの能力も鍛え、総合的な力を養うことを目標とする。	
	中国語ⅢB	「中国語ⅢA」を引継ぎ、更なる中国語力の向上を目的とする。ネイティブの中国人が読む新聞や雑誌記事、エッセイ、小説等のほか、学術的ないし歴史的なテキストを、多種多様な工具書を駆使して、理解できるようにする。またweb上に流れるニュースやドラマを積極的に利用し、普通話のみならず、台湾国語や華語のバリエーションを意識できるようにする。本授業では、(1)高度なテキストを正しく理解できるようになる、(2)自分の意見を中国語らしく書き、述べられるようになる、ことを目標とする。中国語検定を例にとれば、2級合格レベルを目標とする。	
	韓国・朝鮮語ⅢB	本授業は、「韓国・朝鮮語ⅢA」の履修者を対象に、高いレベルの「読む・聞く・話す・書く」の4技能を総合的に身に付けることを目指す。日常的な会話はもちろん、職務上の業務遂行に関する話題まで表現することができるようになる。また、様々なジャンルや文体の韓国語の文章を読んで理解でき、背景の説明があれば、日韓の専門的な時事問題について理解し、自分の意見を表現できるようになる。また、広い範囲で、慣用句・四字熟語・諺・方言を理解できるようになる。ハングル検定準2級(TOPIK4級)の合格、そして学習を継続すれば、韓国での就職や大学院進学ができるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目 第3類	ベーシック英語	本授業は、入学時のプレースメントテストにおいて英語力がCEFR A1.2(英検3級相当)に達していないと判定された者を対象に開講され、英語の基本的な事項の学び直しをするとともに、英語の適切な学習方法を身に付けることを目的とする。いわゆる「リメディアル教材」を用いて、基本的な文法や表現を復習しながら、聞く・話す・読む・書くの活動を行い、それによって、4技能においてA1.2レベルに到達することを目標とする。本授業の履修を指示された者は、本授業の履修終了後に「英語ⅠA・ⅠB」を同時履修する。	
	英語コミュニケーション	本授業は、英語4技能のうち「聞く・話す」に重点を置き、口頭でのコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。授業での活動は、口頭でのペアワークやグループワーク、発表や質疑応答などが中心となるが、話すための準備や、話した後のまとめとして読む活動や書く活動も適宜取り入れられる。入学時プレースメントテストの成績に応じたクラス編成に従い、受講者各自が履修開始時よりもスムーズに、英語でやりとりができるようになることを目標とする。なお、本授業は、教育職員免許状取得の要件となる「外国語コミュニケーション」能力に対応した科目である。	
	英語ⅢA	本授業の目的は、「英語ⅡA・ⅡB」での学修を踏まえ、CEFR C1レベルの英語検定試験に対応できるような英語運用能力を身に付けることである。具体的には、TOEICなどの出題形式を意識した取り組みを通して、ビジネス分野や学術分野での専門的な語彙力の増強や、一定程度の内容を持った専門的英文の正確な理解、パラグラフ構造の理解、論理的意見の聴取と表明などができるようになることを目標とする。受講者としては、「英語ⅡA・ⅡB」で上位クラスに所属していた者、CEFR B2相当の能力を保持している者を想定している。	
	英語ⅢB	本授業の目的は、「英語ⅡA・ⅡB」での学修で到達した話す能力のレベルを維持し、さらに伸ばすことである。具体的には、専門的あるいは高度な内容の話題を扱った英文を読んだり、口頭説明を聞いたりしたうえで、その内容について口頭で要約する、意見を述べる、他者の意見を聞き質問する、議論をする、議論を整理する、などの活動を通して、発展的な英語コミュニケーション能力を獲得することを目標とする。受講者としては、「英語ⅡA・ⅡB」で上位クラスに所属していた者、CEFR B2相当の能力を保持している者を想定している。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
保健体育科目	スポーツ実技A	各種スポーツ競技を通して、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学ぶ。到達目標は、(1)各種スポーツの意義や重要性を理解する、(2)身体の可能性や限界を理解し、日常生活に活かすことができる、(3)他者を理解し、円滑なコミュニケーションに活かせる、(4)各種スポーツの基本的な技術を習得する、(5)各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる、とする。種目は、主として屋内運動種目を中心に実施する。初回のガイダンスと第2回目の体力測定後に、スポーツ活動を実践し、基本技術・ルール等を学ぶ。	
	スポーツ実技B	本授業では、自身に適した運動プログラムを立案し心身の健康や体力を高めるための実践方法を学ぶ。具体的には、全身持久力・筋力・柔軟力を高める運動を主として行う。運動は、特殊な機器を用いたものから、自宅でもできる運動を含めて行う。自身の体力水準に応じて適切に種目・強度・頻度等を選択し、運動プログラムを作成する。到達目標は、(1)健康と体力の意義や重要性を理解する、(2)各種トレーニングを自らが実際に実践できる、(3)心と身体をメンテナンスできる知識や能力を身に付け、実践できる、(4)新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる、とする。	
	体育講義	健康や体力維持・増進のために行う運動・スポーツをより効果的にするために、運動・スポーツの科学的理論の理解が必要である。本授業では運動・スポーツ生理学に関わる理論を中心に分かりやすく解説する。本授業では、(1)運動の健康に対する効果の重要性を理解できる、(2)健康に関連する体力(身体組成、筋力、全身持久力)と生理的なしくみの関係性を理解できる、(3)健康・体力の維持増進のための運動プログラムを作成できる、ことを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留学科目	海外研究A	<p>本学の国際交流協定校において夏期に実施される海外研修（現地研修）と事前学習及び事後学習からなる。参加者は、事前学習として現地の文化、歴史、言語、生活様式に関する基礎知識と基礎的な外国語運用能力を身に付けるとともに、研修中に行う研究の計画案を作成する。現地研修は、外国語集中講座及び現地の文化、歴史、言語、生活様式に関する講義の3～4週間からなる。なお、現地研修終了後は、現地研修に基づいた研究成果を研究報告書としてまとめ、発表及び提出する。研究報告書及び事前学習への参加状況と現地での活動で総合的に評価する。本授業では、現地の社会的、文化的及び言語的な側面を理解し、その概要を伝えることができるようになることを目標とする。</p>	
	海外研究B	<p>国際交流協定校及び協定校附属校（語学堂を含む）が募集する、春休み若しくは夏休みに実施される現地プログラムに参加することによって、外国語及び文化、歴史、生活様式などを現地研修を通して学ぶ。異文化を直接体験し、グローバルな視野と積極的なコミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。なお、協定校が提供するオンライン短期留学も対象とする。対象となる短期留学に参加した結果を国際交流課で確認し、参加プログラム授業時間が合計2,700分以上の者に2単位を付与する。</p>	
	海外研究C	<p>国際交流協定校及び協定校附属校（語学堂を含む）が募集する、春休み若しくは夏休みに実施される現地プログラムに参加することによって、外国語及び文化、歴史、生活様式などを現地研修を通して学ぶ。異文化を直接体験し、グローバルな視野と積極的なコミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。なお、協定校が提供するオンライン短期留学も対象とする。対象となる短期留学に参加した結果を国際交流課で確認し、参加プログラムの授業時間が合計1,350分以上2,700分未満の者に1単位を付与する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国人及び帰国生科目	日本語ⅠA	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、聴講の日本人学生と協働し、日本語の4技能を統合したプロジェクトワークを行う。具体的には、まず、若者言葉・方言・曖昧表現・オノマトペ等の「ことば」をテーマに関連した教材の視聴や読解を行い、ディスカッションを行う。次に、チームごとに、受講生自身が問いを立て、深く調べ、発表・報告を行う。また毎回内省を書くことで、自身の日本語表現を客観的に見直していく。この一連の過程により、日本語を多角的に捉えると同時に、実践的でアカデミックな日本語力を身に付けることを目標とする。	
	日本語ⅠB	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、聴講の日本人学生と協働し、日本語の4技能を統合したプロジェクトワークを行う。具体的には、「留学生の目から見た実際の日本」をテーマに、雑誌作成や動画作成等の創作活動を行う。チームで企画を立案し、雑誌作成においてはアンケートやインタビュー調査の実施、記事執筆、編集及び発表・報告を、動画作成においては脚本作成、出演、撮影、演出、編集及び発表・報告を行う。この過程で実践的な日本語力を身に付けると同時に、日本文化に関して見識を深め、自身なりの意見を効果的に相手に伝えられるようになることを目標とする。	
	日本語ⅡA	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、アカデミックな日本語のライティングをテーマに、日本の大学で学ぶ留学生に必要な日本語運用能力を身に付けていく。まず、教材の読解を通し、文法・漢字・語彙・表現を学び、理解力を高める。さらに、練習を通して論理的にレポートが書けるよう練習していく。具体的には、説明・定義・分類・比較対照・因果関係等の文構造・文章構造について、課題を通じて学ぶ。本授業においては、論理的な思考方法を身に付け、論理的な文章の展開方法を意識して文章の構成を考えられるようになることを目標とする。	
	日本語ⅡB	本授業は、日本語中上級レベルの外国人留学生及び帰国生を対象とした日本語授業である。受講生は、アカデミックな日本語のライティングをテーマに、日本の大学で学ぶ留学生に必要な日本語運用能力を身に付けていく。具体的には、論説文の特徴をつかんだうえで、要約・引用・長文展開の方法について学ぶ。さらに、レポート作成の手順について学び、環境問題・就職活動・少子化等の課題に沿って論理的な文章を書く練習を行う。また、書いたものを協働作文活動により推敲していく。これらの過程を通し、日本語による文章の論理的な展開を身に付け、読み手を意識し、首尾一貫した説得力のある文章を書けるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部データサイエンス学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 基盤 科目	フレッシュパーソンセミナー	<p>本授業のテーマは「データサイエンス学科におけるカリキュラムロードマップの理解」である。データサイエンス学科の教育に関する理念及び目標を理解したうえで、1年生から4年生までのような流れでどのような科目を学ぶのかを学ぶ授業である。本授業においては、(1)教育に関する理念及び目標を説明できる、(2)4年間のカリキュラムロードマップを説明できる、(3)自分が目指す方向性を説明できる、ことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 菅原 研/3回) 情報科学関連科目を中心に、科目間の関連性、また数理科学及び社会科学の科目との関係についての講義を行う。</p> <p>(3 石田 弘隆/3回) 数理科学関連科目を中心に、科目間の関連性、また情報科学及び社会科学の科目との関係についての講義を行う。</p> <p>(15 小林 信重/3回) 社会科学関連科目を中心に、科目間の関連性、また情報科学及び数理科学の科目との関係についての講義を行う。</p> <p>(7 鈴木 努/2回) 社会調査士とは何か、その資格取得などについての講義を行う。</p> <p>(16 佐藤 篤/2回) データサイエンスについて、数理科学的側面からの講義を行う。</p> <p>(8 武田 敦志/2回) データサイエンスについて、情報科学的側面からの講義を行う。</p>	オムニバス方式	
	演習	情報学演習 A	<p>本授業は、データサイエンスに関わる情報・数理・社会科学の学問領域において、その分野を専門とする指導教員のもと、総合研究で行う研究テーマの探求及び研究を行うために必要な専門知識と技能を修得する。「情報学演習 B」とセットで履修し、少人数のクラスで学ぶ。本授業では、(1)総合研究に取り組むために必要な専門的な知識や技能を先行研究からの確に身に付ける、(2)自らが学ぶ学問領域のデータサイエンスにおける位置付けを理解する、(3)研究活動に必要な技術として、研究課題を発見する力、先行研究を論理的・批判的に考察する力、情報を収集・整理する力、先行研究を正しく伝える力を修得する、ことを目標とする。</p>	
		情報学演習 B	<p>本授業は、データサイエンスに関わる情報・数理・社会科学の学問領域において、その分野を専門とする指導教員のもと、総合研究で行う研究テーマの探求及び研究を行うために必要な専門知識と技能を修得する。「情報学演習 A」での学修を踏まえ、(1)総合研究に取り組むために必要な専門的な知識や技能を実践的な演習課題を通して深める、(2)自らが学ぶ学問領域の研究上の問題意識を理解する、(3)研究活動に必要な技術として、研究課題を発見する力、実践的な演習課題を論理的・批判的に取り組む力、情報を分析する力、自らの考えを正しく伝える力を修得する、ことを目標とする。</p>	
		総合研究（卒研課題） A	<p>本授業のテーマは「大学での学びの集大成としての卒業論文のテーマの決定と研究への着手」である。1年間かけて行う総合研究の前半部分に該当し、指導教員の支援を受けながら、まずは研究テーマを設定するところから始まり、そのテーマについてデータを収集・分析するなどして研究に着手する。構想発表会において各自の研究テーマと進捗を報告し、教員はチームを作ってそれぞれの研究を支援する。本授業においては、(1)選んだ研究テーマの背景及び目的を説明できる、(2)類似の研究との関連性及び独自性について説明できる、(3)最終的な目標とするところを説明できる、ことを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習 専門基盤科目 数理	総合研究（卒研課題）B	本授業のテーマは「大学での学びの集大成としての卒業論文の完成と報告」である。1年間かけて行う総合研究の後半部分に該当し、指導教員の支援を受けながら、研究テーマへの取り組みを完成させ、卒業論文を執筆し、報告を行う。途中、中間発表会において各自の研究テーマの進捗を報告する。最終発表会では、取り組んだ研究の成果について報告する。教員はチームを作ってそれぞれの研究を支援する。本授業においては、(1)選んだ研究テーマの背景及び目的を説明できる、(2)類似の研究との関連性及び独自性について説明できる、(3)取り組んだ研究について最終的な結論を説明できる、ことを目標とする。	
	基礎数学	工学や自然科学の基礎となる1変数関数の微分積分学の基礎を講義形式で学ぶ。特に、数列の極限、関数の極限と連続関数の性質、関数の微分の定義とその意味、関数の積分とその意味について理解する。本授業では、(1)初等関数の基本的な事項を理解できる、(2)数列の極限を理解し、様々な数列の収束を判定できる、(3)関数の極限を理解し、様々な関数の極限を求めることができる、(4)連続関数の定義を理解し、連続関数に関する重要な定理を証明できる、(5)1変数関数の微分法を理解できる、(6)1変数関数の積分法を理解できる、ことを目標とする。	
	基礎統計学	データの整理及び確率と確率分布について学ぶ。本授業では、統計資料の整理法を学んだ後に、統計理論の裏付けとなる確率論、確率分布の取り扱いについて学習する。授業は講義形式及びExcelを用いた演習形式で行う。本授業においては、統計資料の整理法を理解し、確率的なものを見方、確率変数、確率分布に関する基本的事項を身に付けること、またそれによって、観察や実験によって得られたデータを確率的モデルを用いて解析することの意味を理解し、実際に度数分布、グラフ表示、代表値の算出などの基本的なデータの整理、解析ができることを目標とする。	
	応用統計学	確率分布とそれに基づく統計処理の実際について学ぶ。本授業では、観測、実験、調査等によって得られたデータを統計的に処理するのに必要となる基礎的事項について学習する。授業は講義形式及びExcelを用いた演習形式で行う。本授業においては、母集団と標本抽出に関する基本的概念を身に付けること、カイ2乗分布、t分布などの基本的な確率分布やその統計量を用いた統計的推定及び統計的検定の理論と方法を理解し、棄却域や2種類の過誤などの概念を用いて、平均の差の検定、相関係数の検定、独立性の検定などの解析手法を実際のデータ解析に応用できることを目標とする。	
	線形代数学入門	工学や自然科学の基礎となる線形代数学を講義形式で学ぶ。特に、ベクトル・行列の定義及び演算とその性質、消去法による連立一次方程式の解法及び逆行列を求める方法を理解する。本授業では、(1)ベクトル・行列の定義を理解し、基本的な計算ができる、(2)ベクトルの内積の定義を理解し、ベクトルの内積を求めることができる、(3)ベクトルの成分表示を理解し、基本的な計算ができる、(4)行列の行基本変形を理解し、連立一次方程式を解くことができる、(5)逆行列の定義を理解し、逆行列を求めることができる、ことを目標とする。	
	線形代数学A	工学や自然科学の基礎となる線形代数学を講義形式で学ぶ。特に、線形代数学入門から引き続き、連立一次方程式の解と階数の関係や行列式の定義とその性質を理解する。また、応用として連立一次方程式の解法や逆行列の求め方についても学ぶ。後半では、抽象ベクトル空間と線形写像に関して学ぶ。本授業では、(1)行列式の定義及び性質を理解し、その計算ができる、(2)行列式を用いて、連立一次方程式の解や逆行列を求めることができる、(3)抽象ベクトル空間及びその次元・基底について理解できる、(4)線形写像とその像や核を理解できる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
数理	微分積分学A	工学や自然科学の基礎となる1変数関数の微分学の基礎を講義形式で学ぶ。数列の極限・関数の極限の定義、数列の収束の判定、関数の微分・積分の定義とその意義、初等関数（指数・対数関数、三角関数、無理関数など）の定義について理解する。本授業では、(1)実数の性質を理解できる、(2)数列の極限の定義を理解し、様々な数列の収束を判定することができる、(3)関数の極限の定義を理解し、様々な関数の極限を求めることができる、(4)1変数関数の微分法を理解できる、(5)1変数関数の積分法、特に、不定積分を理解できる、ことを目標とする。	
	微分方程式	自然科学や社会科学における様々な現象をモデルとして表す際に用いる微分方程式について、その基礎理論と解法を講義形式で学ぶ。特に、1階の基本的な微分方程式の解法及び主に2階の線形微分方程式の性質と解法を理解する。また、自然科学や社会科学に関する簡単なモデルを記述する微分方程式とその境界値・初期値条件についても学ぶ。本授業では、(1)微分方程式の解について理解する、(2)変数分離形、同次形、線形、完全微分形などの1階微分方程式の解法を理解し、基本的な問題を解くことができる、(3)微分演算子を用いて定数係数線形微分方程式の解法を理解し、基本的な問題を解くことができる、ことを目標とする。	
専門基盤科目	情報社会と情報倫理	情報や情報技術を基盤とする社会である情報社会の仕組み、情報技術の歴史とAI、IoT、ビッグデータのような情報技術の先進的な利用動向、情報技術と社会・経済・法律などの関係（インターネットビジネスや個人情報保護法・知的財産権など）、情報社会で求められる情報倫理や情報リテラシー、高等学校情報教育の情報モラル教育について学修する。本授業においては、学生たちが、情報倫理を理解したうえで情報を適正に活用できるようになること、情報セキュリティを理解し守ることができるようになること、高等学校の情報教育において情報モラルを指導することができるようになることを目標とする。	
	コンピュータ科学	情報システムの活用に必要な基礎知識を習得する。特に、情報システムの活用に必要な、コンピュータシステム、プログラム言語とその他の言語、データ構造とアルゴリズム、セキュリティについて理解する。授業は講義形式である。本授業では、(1)コンピュータシステムに関する用語と概念を理解し、自分の言葉で説明できる、(2)プログラム言語とその他の言語に関する用語と概念を理解し、自分の言葉で説明できる、(3)データ構造とアルゴリズムに関する用語と概念を理解し、自分の言葉で説明できる、(4)情報セキュリティに関する用語と概念を理解し、自分の言葉で説明できる、ことを目標とする。	
	プログラミング概論	本授業のテーマは「ビジュアル・プログラミングによるプログラミング概念の理解」である。ビジュアル・プログラミングの経験を通して、変数・条件分岐・繰り返しといったプログラミングの概念を学ぶ授業である。最終的にはApp InventorやJavaScriptを用いてスマートフォンアプリの作成を体験し、プログラミングを学ぶと何ができるようになるのかを理解する。本授業においては、(1)変数・条件分岐・繰り返しを使ったプログラムを作ることができる、(2)簡単なAndroidアプリを作成し動作させることができる、(3)プログラミングを学ぶと何ができるようになるのかを説明できる、ことを目標とする。	
	プログラミング基礎	本授業のテーマは「Pythonを用いた基本的なプログラミングの理解」である。プログラミングに慣れることに主眼を置き、Pythonを通してプログラミング技法の基礎を学ぶ授業である。本授業では、文法の理解を深めるために、ゲームを題材として実際にプログラムを作成することに重点を置く。図形の描画、文字・画像の表示、変数、条件分岐、繰り返し処理、マウス操作、キーボード操作、数学関数、3次元図形描画、配列、関数等を扱う。本授業においては、Pythonの基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを独力で作成できることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報 専門基盤科目	情報理論基礎	本授業では、高度情報化社会においてコンピュータを用いた身の回りのたくさんのデジタル機器に応用されており、コンピュータを理解するうえで必要となる基礎的な知識と理論の一つである情報理論について学ぶ。特に、情報理論の基礎知識及び情報理論を利用した基礎的な符号化手法や情報セキュリティについて講義形式で解説する。本授業においては、(1)情報量、エントロピー、冗長度といった情報理論の基礎知識について説明できる、(2)ハフマン符号化、ハミング符号といった情報源や通信路の各種符号化手法について説明できる、(3)暗号や認証に応用されている情報理論を利用した情報セキュリティについて説明できる、ことを目標とする。	
	データサイエンスA	データ解析に関する手法や社会的課題について学び、データ解析に関する基礎的教養を身に付ける。特に、データ解析を適切に実施するために必要なデータの扱い方、可視化手法及び集計方法を習得し、倫理的な課題について理解する。本授業では、(1)データの種類に応じて適切なデータ解析方法を選択できる、(2)集計や可視化を行うことにより分布や代表値を説明できる、(3)集計結果や統計情報を読み解き、大量のデータから価値のある情報を見つけ出せる、(4)データ解析やAIの利用における倫理的な留意事項を認識し、課題に対して適切なデータ解析方法を選択できる、ことを目標とする。	
	人工知能概論	人工知能に関する理論と技術の概要を学び、人工知能の基礎的知識を身に付ける。特に、人工知能の重要な要素技術である探索手法、推論手法、機械学習、進化的計算、ニューラルネットワークに関する知識を習得する。本授業では、(1)人工知能の基本的アルゴリズムである探索法を把握し、課題に応じて適切な探索法を選択できる、(2)ルールベース推論や述語論理の仕組みを説明できる、(3)ファジー理論や確率論に基づく推論手法を説明できる、(4)機械学習を用いた推論モデルの作成方法を説明できる、(5)ニューラルネットワークを用いた画像認識や自然言語処理の仕組みを説明できる、ことを目標とする。	
	データサイエンスB	具体的なデータ解析手法を学び、オープンデータを用いた演習を通じて実践的なデータ解析手法を身に付ける。特に、データ解析を実践するために必要となるデータの確認方法、分析方法、検定方法及び推論モデルの作成方法を習得する。本授業では、(1)欠損値や外れ値を含んだデータを可視化し、そのデータの分布や傾向を説明できる、(2)説明変数や目的変数について分析し、相関や因果関係を説明できる、(3)有意差を説明するために適切な検定を実施できる、(4)データの特徴を反映させた推論モデルを作成し、その推論モデルの性能を評価できる、ことを目標とする。	
	社会調査基礎論	社会学の最も重要なツールの1つである社会調査の基礎を学ぶ。特に、(1)社会調査とは何か(社会調査の歴史・種類・方法)、(2)社会調査が私たちの社会や生活にどのような意義を持つのか、の2点を中心に社会調査の基本的な事柄について学ぶ。具体的には、社会調査の歴史、量的調査の方法(サンプリング、質問紙の作成)、質的調査の方法、データを作る(量的調査と質的調査におけるデータの特徴)、調査データを調べる(様々な誤差、基本的な集計・分析)、社会調査はどう「役に立つ」のか(様々な調査データの活用方法)、社会調査の倫理(個人情報保護など)、調査結果の還元と応用を学ぶことで、社会調査の基礎を身に付ける。	
	社会調査法	社会調査の設計と実施の方法について学ぶ。本授業は講義形式の授業として行う。本授業では、資料やデータを収集し分析できるように整理するまでの方法として、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理の仕方などを学習する。量的調査を中心として質的調査法についてもその意義と方法を学ぶとともに、調査研究における倫理的事項についても扱う。本授業においては、目的に応じて適切な社会調査の方法を選択し、設計、実施するための基本的な知識と技術の習得を目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部データサイエンス学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 基 盤 科 目	社 会	情報活用とデジタルヒューマニティーズ	文献資料等の探索における情報技術の利用や、人文学における情報学的研究であるデジタルヒューマニティーズについてオムニバス講義形式で学ぶ。本授業においては、記事・論文データベースを利用して資料探索ができるようになること、人文学分野における情報技術の活用方法の基礎的事項を理解できるようになることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (4 片瀬 一男/8回) オンラインデータベースの活用法、歴史学等におけるデジタルアーカイブ、テキストマイニングなどの情報技術の活用事例を教授する。 (7 鈴木 努/7回) 人文社会科学における、ネットワーク分析、地理情報分析といったデータ分析法の活用事例を教授する。	オムニバス方式
		オープンデータの活用とデータの可視化	本授業のテーマは「入手可能な様々なオープンデータを活用し、可視化して新たな価値を創造する」である。現在は、公的機関や民間企業などが様々なデータを公開して、活用を促している。こうしたオープンデータの活用の方法を理解して、ツールを用いて可視化する方法を実践的に習得する。また、可視化されたグラフなどを通して、そこから新たな価値を創造する手法についても学ぶ。本授業においては、(1)目的とするオープンデータを入手することができる、(2)ツールを使ってデータを様々な視点から可視化することができる、(3)可視化されたものから新たな価値を創造することができる、ことを目標とする。	
		経営学概論	本授業のテーマは「経営学の基礎を学ぶ」である。近年では、経営学において、データを収集・分析し、定量的な議論に基づく意思決定が重要となっている。経営学の枠組、企業形態、経営組織、企業分析、意思決定について概説したうえで、そこで必要とされるデータについて理解する。また、実際の様々なデータに基づく意思決定などの事例についても習得する。本授業においては、(1)経営学における意思決定の方法について説明することができる、(2)経営学におけるマーケティングと経営戦略について説明することができる、(3)経営学とデータサイエンスの関係性について説明することができる、ことを目標とする。	
		ファシリテーション論	本授業のテーマは「会議などの議論の場などにおけるコミュニケーションの支援や舵取りの技法について学ぶ」である。複数のメンバーから構成されるチームでの会議、問題解決、アイデア創造、教育、学習などにおいて、メンバー間のコミュニケーションが円滑かつ効率的に進むように誰かが支援し、舵取りをすることが重要である。そのための手法について実践的に学び、習得する。本授業においては、(1)ファシリテーションとは何かについて説明することができる、(2)ファシリテーションにおける様々な手法について説明することができる、(3)実際のチームの中でファシリテーターとしての役目を果たすことができる、ことを目標とする。	
		プロジェクトマネジメントと組織論	本授業のテーマは「組織の中でプロジェクトをマネジメントするための手法を学ぶ」である。公的機関や民間企業などには組織があり、組織には目的を持ったプロジェクトが作られる。こうした具体的な目標が定義されたプロジェクトを管理するため、人材・資金・設備・物資・スケジュールなどを調整し、各工程の進捗状況を把握し管理する手法を習得する。本授業においては、(1)経営組織の理論を説明できる (2)プロジェクト管理とは何かについて説明することができる、(3)プロジェクトを管理するための様々な手法について説明することができる、(4)プロジェクト管理の成功事例と失敗事例について説明することができる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 数理	集合論	数学的概念を記述する時に必要不可欠な論理記号や集合論で使用される記号と、数学的基礎となる論理命題・述語論理を理解し、素朴集合論と公理的集合論を講義形式で学ぶ。(1)論理についての逆命題、否定命題、対偶命題などの基本事項を理解し、扱うことができる、(2)集合についての基本事項及び共通部分、合併、差集合などの集合演算を理解できる、(3)写像や関数について全射性、単射性、全単射性などの基本事項を理解できる、(4)自然数全体の集合とともに数学的帰納法について理解できる、(5)無限集合の理論において、濃度による大きさの比較と可算集合と非可算集合の別を理解できる、ことを目標とする。	
	線形代数学B	工学や自然科学の基礎となる線形代数学を講義形式で学ぶ。特に、「線形代数学A」から引き続き、行列の固有値・固有ベクトルの定義と計算方法及び行列の対角化とその応用である2次形式の標準形に関して学ぶ。本授業では、(1)行列の固有値及び固有ベクトルの意味を理解し、その計算ができる、(2)行列を対角化する方法とそのための条件を理解し、正しく対角化することができる、(3)対称行列の直交行列による対角化を応用して、2次形式の標準形を求めることができる、(4)与えられた2次曲線の概形を平面上に描くことができる、ことを目標とする。	
	微分積分学B	「微分積分学A」から引き続き、1変数関数の微分積分学を講義形式で学ぶ。平均値の定理やテイラーの定理といった微分可能な関数に対して成り立つ重要な定理を学び、初等関数に関するテイラー展開についても学ぶ。後半は1変数関数のリーマン積分の現代的な定義とリーマン積分可能な関数について理解する。本授業では、(1)平均値の定理とテイラーの定理を理解できる、(2)リーマン積分の定義とリーマン積分可能な関数について理解できる、(3)連続関数の定義を理解し、連続関数に関する重要な定理を証明することができる、(4)微分積分学の基本定理を理解できる、(5)様々な関数のリーマン積分を計算することができる、ことを目標とする。	
	確率・統計	19世紀以降の確率論・統計学の歴史的発展を紹介し、確率的な現象は数学ではどのように扱われてきたのか、また、確率論と統計学はどのような関係があるのか、そしてそのような歴史を踏まえ現代における公理的確率論と統計学について講義形式で学ぶ。本授業では、(1)記述統計学に関する様々なデータ処理方法を理解し、推定統計学における確率論と統計学の関係について理解できる、(2)測度論の基礎事項を踏まえた確率論を理解できる、(3)大数の法則と中心極限定理について理解できる、(4)大数の法則と中心極限定理を用いて点推定と区間推定を理解できる、(5)帰無仮説検定について理解できる、ことを目標とする。	
	解析学A	多変数関数の連続性、偏微分、(全)微分、テイラー展開とその応用、極値の求め方を講義形式で学ぶ。多変数関数においては、一般には、(全)微分を求めることは難しいが、偏微分に関しては1変数関数と同様にして求めることができる。しかし、偏微分は1変数関数での微分と同じ性質を持っているわけではない。この違いは多変数関数を学ぶうえで重要である。本授業では、(1)多変数関数の偏微分、テイラー展開とその応用、極値の求め方などの意味を理解し、説明できる、(2)簡単な関数の偏微分、テイラー展開、極値の計算ができる、ことを目標とする。	
	解析学B	「解析学A」に引き続き、多変数関数の積分法とその応用、また、「微分積分学B」で学んだテイラー級数をより深く学ぶため、ベキ級数(整級数)とその収束性、関数列の一致収束性、点収束性、項別積分と項別微分について講義形式で学ぶ。本授業では、(1)重積分及び広義重積分について理解し、簡単な場合の計算ができる、(2)一次変換の定義を確認し、重積分を用いて体積や表面積を求めることができる、(3)正項級数の例と取り扱いについて説明でき、収束・発散の判定ができる、(4)級数の一致収束・点収束を判定し、簡単な関数の項別積分・項別微分を計算できる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部データサイエンス学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	数 理	代数学A	群・環・体といった代数系の定義や例に触れるとともに、代表的な群や群の基本的な性質について講義形式で学ぶ。特に、異なる形で与えられた群が同型であるということの意味や、部分群・正規部分群と剰余群の概念、有限群を分類するために必要となる様々な概念や定理を理解することを通して、抽象化して考えるということを通して学ぶ。本授業では、(1)群論の基本的な諸概念について具体的な群を通して多彩に説明できる、(2)準同型定理を用いて群の同型を証明できる、(3)与えられた位数を持つ群を分類できる、ことを目標とする。	
		代数学B	環や体の定義や例に触れるとともに、可換環の理論における諸概念や体の拡大について講義形式で学ぶ。特に、初等整数論における諸概念が可換環においてどのように一般化されるのかを学ぶことを通じて、整数や多項式について統一的な観点から見直す。また、剰余環を利用して体の拡大を具体的に構成することを通して、抽象的に考えることの意味を学ぶ。本授業では、(1)準同型定理を用いて環の同型を証明することができる、(2)可換環における素元分解について具体的な例を通して多彩に説明できる、(3)多項式の既約性を判定して拡大体を構成することができる、ことを目標とする。	
		幾何学A	中学校・高等学校で学ぶ平面図形に関する学習内容を発展させた初等幾何学を学ぶ。特に、初等幾何学で扱う図形に関する知識の習得と初等幾何学の公理的構成に見られる論理展開を理解することを通して、中学校・高等学校の平面図形に関する学習内容を俯瞰して理解する。本授業では、(1)初等幾何学で扱う図形に関する知識を説明できる、(2)三角形の合同に関して説明できる、(3)平行線の公理に関して説明できる、(4)共点や共線に関する定理について説明できる、(5)デザルグの定理等の初等幾何学の定理の内容と証明を説明できる、ことを目標とする。	
		幾何学B	平面上の曲線や空間内の曲線・曲面に関する微分幾何学の基礎を学ぶ。特に、平面上の曲線の曲がり具合を表す曲率、空間内の曲線の曲率と捩率、空間内の曲面の平均曲率やガウス曲率といった曲線・曲面の特徴を表す不変量の理解を通して、これまでに学んだ微分積分学・線形代数の知識を応用する微分幾何学の基礎的な概念を学ぶ。本授業では、(1)曲線の曲率や捩率について説明でき、簡単な曲線について計算できる、(2)閉曲線の大域的な結果について説明できる、(3)空間内の曲面の平均曲率やガウス曲率に関して説明でき、簡単な曲面について計算できる、ことを目標とする。	
		数理情報学A	代表的な公開鍵暗号であるRSA暗号系と、その背景にある初等整数論について講義形式で学ぶ。数理科学的な側面からは、ユークリッドの互除法を基本的な道具として素数の性質・整数の素因数分解や整数の合同について理解する。また、計算機科学的な側面からは、公開鍵暗号やデジタル署名の仕組みに加えて素数判定や素因数分解のアルゴリズム並びに計算量の評価について理解する。本授業では、(1)暗号理論を支える数学とRSA暗号系の仕組みについて説明できる、(2)RSA暗号の暗号化・復号化の例を具体的に構成できる、ことを目標とする。	
		数理情報学B	情報通信における誤り検出や誤り訂正に利用される符号理論並びにその背景にある情報理論と有限体上の線形代数について講義形式で学ぶ。特に、誤り検出・訂正能力と通信の効率とを両立させる方法や、通信環境に応じて適切に符号化を行えば必要な精度で誤りの検出・訂正が行えるということについて理解する。本授業では、(1)誤りの検出や訂正ができる仕組みについて説明できる、(2)線形符号におけるパラメータを求め、その意味を説明できる、(3)いくつかのアルゴリズムに基づいて誤り訂正を効率良く行うことができる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部データサイエンス学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	数理	複素関数	複素数を数の基本とした微分積分学である複素関数論を講義形式で学ぶ。特に、複素数の性質、複素関数の連続性や微分可能性、複素微分及び複素積分、コーシーの積分定理・積分公式を学ぶ。本授業では、(1)複素数の計算ができ、複素数平面上での幾何学的意味を説明できる、(2)複素関数の連続性及び微分可能性を理解できる、(3)コーシーの積分定理及び積分公式を説明できる、(4)テイラー展開、ローラン展開を説明でき、基本的な関数について計算ができる、(5)基本的な関数の留数を計算できる、(6)実積分への応用ができる、ことを目標とする。	
		フーリエ解析	本授業では、フーリエ解析の基本を講義形式で学ぶ。特に、音や光など周期的な対象を解析する道具としての三角関数を用いたフーリエ級数について取り上げるとともに、周期を持たない関数に対する類似のフーリエ変換及びフーリエ変換の偏微分方程式への応用を学ぶ。本授業では、(1)周期関数のフーリエ係数を求め、フーリエ級数展開とその収束性を説明できる、(2)簡単な関数に対してフーリエ変換を計算できる、(3)フーリエ変換を偏微分方程式へ応用することができる、(4)基礎的な物理現象をフーリエ解析の立場から解析することができる、ことを目標とする。	
		数学とコンピュータ	コンピュータソフトウェアを利用した数学の研究法や教材の開発法について実習を交えつつ講義形式で学ぶ。特に、スプレッドシート、簡単なプログラミング言語、動的数学ソフトウェア、数式処理ソフトウェア等実際に触れることにより、ソフトウェア毎の違いについて理解する。本授業では、(1)スプレッドシートを利用して数値実験ができる、(2)プログラミング言語を利用してシミュレーションを行うことができる、(3)動的数学ソフトウェアを利用して教材を作成することができる、(4)現在の数式処理ソフトウェアの能力について説明できる、ことを目標とする。	
		感覚知覚情報論A	知覚・感覚システムのうち、ヒトの知覚現象を概観したうえで、視覚と聴覚を中心に、心理学的な側面から知覚・感覚システムの働きを、生理学的な側面から仕組みについて解説する。本授業では、(1)人の知覚現象について説明できる、(2)視覚システムの末梢から中枢までの生理学的な仕組みを説明できる、(3)視覚システムの心理学的な側面を説明できる、(4)聴覚システムの末梢から中枢までの生理学的な仕組みを説明できる、(5)聴覚システムの心理学的な側面を説明できる、(6)知覚体制化に関して説明できる、ことを目標とする。	
		感覚知覚情報論B	脳を情報処理システムと捉えてみよう。我々が経験する感覚知覚は、脳が外界からの刺激（入力）を特定のルール・アルゴリズムにしたがって処理することで得られた結果（出力）である、と考えるということだ。このような視点から脳を理解しようとする研究を「脳の計算論」という。本授業では、視知覚に関わる錯覚・錯視や、我々が実行する典型的な思考プロセスを題材として、それらがどのような入力をどのようなアルゴリズムで処理することで生み出されるのか、脳の計算論的アルゴリズムとそれを実行する神経ネットワークの理解を目指すことを目標とする。	
		自然情報科学	本授業のテーマは「自然界に表出する現象を理解し、それらを解析する手法を学ぶ」である。自然界のいくつかの現象を物理学的に理解したうえで、数学の手法で現象を表現して、コンピュータを利用して解析する手法を習得する。特に、物体の運動について1物体から多物体の場合について、解析する具体的手法も学ぶ。本授業においては、(1)自然現象を数量的に記述することができる、(2)自然現象の予測が正しいかどうか判断することができる、(3)現象のモデルを作成することができる、(4)コンピュータを用いた自然現象の解析と予測することができる、ことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	情 報	アルゴリズムとデータ構造	アルゴリズムとデータ構造の基礎知識を習得する。特に、アルゴリズムとデータ構造に関する基本的な考え方を理解し、具体的な設計と実装の手法について理解する。授業は講義形式を中心とするが、適宜演習を取り入れる。本授業では、(1)アルゴリズムに関する基本的な用語と考え方を理解し、自分の言葉で説明できる、(2)データ構造に関する基本的な用語と考え方、さらに代表的な物理データ構造と論理データ構造を理解し、設計・実装することができる、(3)代表的な整列と探索アルゴリズムを理解し、設計・実装することができる、ことを目標とする。
		プログラミング応用	オブジェクト指向プログラミングの基礎を理解し、Pythonを用いたオブジェクト指向のプログラム開発手法を習得する。また、データ解析やテキスト処理を題材としたソフトウェア開発を通じて、ソフトウェア部品として実装したオブジェクトを組み合わせることで複雑なプログラムを構築できることを学ぶ。本授業では、(1)クラスを利用したプログラムを記述できる、(2)オブジェクトを中心としたプログラムを記述できる、(3)ソフトウェア部品として実装したオブジェクトを組み合わせることで複雑なプログラムを構築できる、ことを目標とする。
		機械学習	講義を通じて機械学習の要素技術を学び、実践的な推論モデルの作成方法を学習する。特に、実データを用いて、線形回帰、ノンパラメトリック手法、決定木、クラスタリング、深層学習、強化学習を用いた推論モデルの構築方法を習得する。本授業では、(1)線形回帰やノンパラメトリック手法を用いて予測モデルを作成できる、(2)決定木やクラスタリングを用いて分類モデルを作成できる、(3)深層学習を用いて画像認識や自動翻訳のための推論モデルを作成できる、(4)強化学習を用いて環境に適した推論モデルを作成できる、ことを目標とする。
		ソフトウェア開発論	ソフトウェア開発のプロセスに関する基礎知識を習得する。特に、ソフトウェア開発に必要な企画アイデア、企画書の作成からシステム化に必要な要件定義、システム概要図、ユースケースの作成、外部設計に必要な各種業務の内容と業務手順などに関する知識を習得する。授業は講義形式であり、本授業では、(1)新規にソフトウェア開発を行う際の全体のプロセスと各種業務の役割を理解できる、(2)企画業務における企画アイデアから企画書の作成ができる、(3)開発業務における基本的なシステム概要図、ユースケースの検討と作成、外部設計ができる、ことを目標とする。
		情報通信ネットワーク基礎論	情報通信ネットワーク技術の基礎知識を習得する。特に、情報社会に不可欠な情報通信ネットワークの役割を理解し、情報通信ネットワークの各階層について上位層から順に理解し、重要な関連技術に関する知識を習得する。授業は講義形式である。本授業では、(1)情報社会における情報通信ネットワークの役割を理解し、自分の言葉で説明できる、(2)OSI参照モデルにおける各階層の目的と機能、代表的な要素技術を理解し、各階層の特徴を説明できる、(3)マルチメディア通信、ネットワークセキュリティ、ネットワーク運用・管理の概要を理解し、それぞれの原理と具体的な利用例を説明できる、ことを目標とする。
		情報通信ネットワーク運用論	情報通信ネットワーク技術の運用知識を習得する。特に、日常生活に不可欠なものとなっている情報通信ネットワークの設計及び構築、設定方法やセキュリティについて理解し、ネットワークの運用管理技術に関する知識を習得する。授業は講義形式を中心とし、適宜演習を交えた形式である。本授業では、(1)情報通信ネットワークシステムの構築方法を理解し、小規模ネットワークを設計・作成できるようになる、(2)情報通信ネットワークの仕組みを理解し、ある程度のトラブルに自ら対処できるようになる、(3)情報通信ネットワークに関するセキュリティとモラルを理解し、安全かつ堅牢なネットワーク運用ができるようになる、ことを目標とする。

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	情報	データベースシステム	データベースの基礎知識を、その意義とともに学ぶ。特に、リレーショナルデータベースの基礎知識を習得し、データベースの管理とSQLについて実習を通して体得し、様々なデータベースとその特徴、高度な情報検索について習得する。授業は講義形式を中心とするが、適宜演習を取り入れる。本授業は、(1) リレーショナルデータベースに関する基礎知識を理解し、説明できる、(2) 情報システム開発におけるデータベースの設計の基本的な考え方について理解し、説明できる、(3) データベースの管理とSQLについての基礎知識を実習を通して体得し活用できる、ことを目標とする。
		ウェブサイト構築法	本授業では、情報サービスとWEBサイトの関係を事例として紹介しながら、WEBサイトの構築に必要なフロントエンド側のHTMLの仕組みや、フロントエンドとデータベースやプログラミング言語などのバックエンド側との関係を学びながら、WEBサイトの構築に必要なとされる基礎知識を習得していく。本授業では、現代社会において情報サービスを提供する手法の一つとなっているWEBサイトの特徴や、WEBサイトを構成するフロントエンドとバックエンドの関係を自身の言葉で説明できるようになり、HTMLやPHP言語などを用いた簡易なWEBサイトを自身で構築できるようになることを目標とする。
		デジタルメディア表現と技術A	情報化社会においてマルチメディアを有効かつ適切に活用するために必要な表現・発信手法を習得する。本授業では文書・音声・静止画・動画といったメディアの特性並びにその表現手段について、人間の知覚特性に基づく伝達効果やデータ圧縮技術などの周辺知識も含め、マルチメディアに関する基礎的な知識や技術について学ぶ。授業は講義形式を中心とするが、適宜演習を取り入れる。本授業においては、(1) マルチメディアに関する基礎的な知識や技術について説明できる、(2) マルチメディアの伝達効果や活用事例について説明できる、(3) 学んだ内容を基にマルチメディアコンテンツを構成し企画できる、ことを目標とする。
		デジタルメディア表現と技術B	マルチメディアを扱う技術に関する基礎的な知識を習得する。主に音声と画像に焦点を当て、デジタル化・信号処理・データ圧縮といった技術の原理や特徴について学ぶ。さらに、マルチメディアとHCI (Human Computer Interaction) の関わりについても学ぶ。授業は講義形式を中心とするが、適宜演習を取り入れる。本授業においては、(1) マルチメディアに関する基本的な技術の原理や特徴を説明できる、(2) マルチメディアとHCIの関わりについて説明できる、(3) 学んだ内容を基にマルチメディアの課題やさらなる応用可能性について考察できる、ことを目標とする。
		デジタルメディア制作	プログラミングやハードウェアに関する知識・技能と、いくつかの開発用ソフトウェアを用いて、デジタルゲームとCGを中心としたデジタルメディアの制作技法を学んでいく。また、実際のデジタルゲーム・CGで用いられている技術や販売・宣伝手法の解説、ミニゲーム制作も実施し、場合によっては、商業ゲーム・CG制作者を招いてのディスカッションも実施する。本授業においては、学生たちがゲーム・CGプログラミング技法や、コンテンツの流通方法を理解し説明できるようになること、実際のゲーム・CGを見て使用されているプログラミング技法について理解し説明できるようになることを目標とする。
		情報サービスとIoT	インターネットを活用した情報サービスとモノのインターネット (Internet of Things (IoT)) に関する基礎知識を習得する。特に、情報サービスを取り巻く情報システムの変遷、IoTの仕組みや関連技術とその発展について学びながら基礎知識を習得する。授業は講義形式である。本授業では、(1) 産業・公共系の情報サービスの特徴を理解し、自分の言葉で説明できる、(2) IoTの主要技術や各機能が担うべき役割を整理して説明できる、(3) 情報サービスとIoTが関わる様々な分野への応用事例を自ら調査することで、最新技術の動向の概要や課題、新たな利活用方法について検討・整理して説明できる、ことを目標とする。

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	情報	<p>モデル化とシミュレーション</p> <p>コンピュータを用いた問題解決法の一つであるシミュレーションと、そのシミュレーションを行ううえで必要となるモデリング方法を学ぶ。自然や社会にみられる現象を題材に、その現象を力学モデルや確率モデルの形で記述する方法、プログラミングによりシミュレーションする方法の基礎を学習する。授業は講義形式を中心とするが、適宜演習を取り入れる。本授業では、(1)モデル化とシミュレーションに必要な知識を習得し活用できる、(2)現象をモデル化する手法を理解し説明できる、(3)モデル化したものをシミュレートし結果を得るとともに、その結果を正しく解釈し説明できる、ことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 菅原 研・20 村上 弘志/1回) (共同) この科目のテーマ、講義内容、達成目標、授業計画、成績評価方法などの総論についての講義を行う。</p> <p>(2 菅原 研/7回) 社会現象の理解に軸をおき、主に確率モデルとしての取り扱いに焦点をあて、適宜演習を含めながら講義を行う。</p> <p>(20 村上 弘志/7回) 自然現象の理解に軸をおき、主に力学モデルとしての取り扱いに焦点をあて、適宜演習を含めながら講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	情報と職業	<p>現代社会ではあらゆる場面で情報化が進んでおり、この動きは職業に関しても例外でない。情報化社会における職業と進路指導について学ぶ。高等学校教諭免許状(情報)取得のための必修科目の一つであり、特に、高校進路指導としての職業に関する一般的な事項と職業の実態について学修し、情報社会の職業を考察し、企業のビジネスモデルについて学修する。授業は講義形式である。本授業は、(1)高等学校の進路指導ができる、(2)情報に関わる職業と労働の特質を説明できる、(3)企業のビジネスモデルについて実態を踏まえ説明できる、ことを目標とする。</p>	
	社会	<p>社会統計学A</p> <p>公的統計や調査報告書、学術論文などの社会調査データ分析を読み取るための統計学の基礎的概念と方法について学ぶ。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計、各種グラフなどの読み方とそれらの計算方法や作成方法及び相関係数や相関と因果の区別などの基本的概念を学習する。本授業は講義形式及び表計算ソフトや統計ソフトを用いた演習形式で行う。本授業においては、社会調査データの分析や調査報告書の読解に必要な統計学の基礎知識について理解すること、社会調査データの基礎的な分析を行うことができるようになることを目標とする。</p>	
	社会統計学B	<p>社会調査データの分析で用いる推測統計学と多変量解析の基礎を学ぶ。統計的仮説検定や統計的推定といった推測統計学の基礎的概念と、平均の差の検定、独立性の検定などの統計的検定法、相関係数と偏相関係数、三重クロス表などの分析法、分散分析や回帰分析などの多変量解析の基礎について学習する。本授業は講義形式及び表計算ソフトや統計ソフトを用いた演習形式で行う。本授業においては、推測統計学の考え方を理解し、説明できること、二変量及び基礎的な多変量分析手法について理解し、実際に分析できること、を目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部データサイエンス学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	社 会	社会調査実習A	<p>(7 鈴木 努・15 小林 信重/15回) (共同)</p> <p>社会調査の企画から実査に至るまでの過程について、体験を通じて学習する実習科目である。扱う内容は、科学的な社会科学研究のための社会調査の企画、資料の収集と先行研究の検討、仮説構成とそれに基づく調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施といった社会調査に関する具体的な方法である。本授業においては、具体的な問題関心に基づいて調査の企画、設計、調査票の作成から調査の実施までの全過程を通して自ら行えるようになること、またグループワークにより協働的に社会調査を実施できるようになることを目標とする。</p>	共同
		社会調査実習B	<p>(7 鈴木 努・15 小林 信重/15回) (共同)</p> <p>社会調査の企画から実査に至るまでの過程について、体験を通じて学習する実習科目である。「社会調査実習A」に引き続き、「社会調査実習B」では、データの確認、エディティング、データ入力、データクリーニング、データ分析、対象者向けの調査報告パンフレット、調査報告書の作成を行う。本授業においては、データの確認・エディティング・入力・クリーニングから、データ分析、調査報告パンフレット・調査報告書の作成までの全過程を自ら行えるようになること、またグループワークにより協働的に社会調査を実施できるようになることを目標とする。</p>	共同
		多変量データ分析法	<p>社会調査データの分析でよく使われる多変量解析手法の理論的な基礎と実際にデータ分析に適用する方法について学ぶ。本授業は統計解析ソフトを用いた実習形式で行う。相関、回帰、クロス集計といった二変量の分析を基礎に、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、主成分分析、因子分析、対応分析などのいくつかの多変量解析手法を扱う。本授業においては、データの性質や目的に応じてこれらの多変量解析手法を適切に用いることができるようになること、統計ソフトを用いてデータの整形から分析、結果の解釈と提示までを受講生自らが行うことができるようになることを目標とする。</p>	
		ゲームスタディーズ	<p>情報技術の発展型であるデジタルゲームの仕組み、ゲームと遊びの歴史、ゲームで用いられている近年の先端技術（人工知能、仮想現実、位置情報など）、ゲーミフィケーションやeスポーツのような利活用事例、ゲーム人口・市場のグローバルな拡大の実態や背景、ゲームの生産・消費を巡る動向（ゲーム制作の大規模化、インディペンデントゲーム、ゲーム実況など）、国内外の大学におけるゲーム研究と教育の現在について、総合的に学習する。本授業においては、学生たちが、デジタルゲームと技術・社会・文化との関係を説明できるようになること、自らのデジタルゲーム体験を社会的・歴史的に位置付けられるようになることを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 社会	社会ネットワーク基礎論	<p>社会ネットワークに関する基礎的事項について、数学、情報学、社会学の各側面からオムニバス講義形式で学ぶ。本授業においては、社会ネットワークの概念を様々な事象に適用し、実践的に活用できるようにすることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 佐藤 篤/5回) 社会に存在する様々な関係性を抽象化したグラフに関する基礎理論を数学的側面から教授する。</p> <p>(17 高橋 秀幸/5回) 情報学的側面から、情報化社会におけるコミュニケーションネットワークに関する理論と応用について教授する。</p> <p>(7 鈴木 努/5回) 社会学的側面から、人間関係のネットワーク分析手法とその応用について教授する。</p>	オムニバス方式
	数理社会学	<p>数理モデルを用いて社会現象を記述、説明する数理社会学の理論や諸概念について学ぶ。本授業は講義形式で行う。社会学の様々な考え方に基づきつつ、社会現象や人間行動を数理モデルによって記述、説明する方法について学習する。扱う内容は、合理的選択、囚人のジレンマゲーム、流行・伝播、社会ネットワーク、マイクロマクロリンク、予言の自己成就、相対的剥奪、閾値モデル、社会的ジレンマなどである。本授業においては、社会現象や人間行動を数理モデルによって捉えることでそのメカニズムについて理解を深め、その数理モデルを含めて批判的に検討できるようになることを目標とする。</p>	
	テキストマイニング	<p>文書データから自然言語解析の手法を用いて情報を取り出すテキストマイニングの方法について学ぶ。本授業では、テキストマイニングの基本的事項を理解し、実際にテキストデータの分析ができるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 松本 章代・7 鈴木 努/1回) (共同) この科目のテーマ、講義内容、達成目標、授業計画、成績評価方法などの総論についての講義を行う。</p> <p>(11 松本 章代/7回) 自然言語処理の理論的・技術的側面に関する内容を教授する。特に、対応分析などの代表的な手法について分析方法とその用途や意義についての講義を行う。</p> <p>(7 鈴木 努/7回) テキストマイニングを用いた実際の社会データ分析に関する内容の講義を行う。特に、新聞、文学作品、SNSなどの文章を対象とする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	社 会	情報とビジネス	本授業のテーマは「情報をビジネスの課題解決に活かす手法を学ぶ」である。インターネットの発展と普及によって、商品の開発・生産・販売、さらには顧客との関係管理など、企業の活動の中で情報がどのように活用されているかについて実践的に学ぶ。データサイエンスがビジネスにどのように活用されているか具体事例で学習する。本授業においては、(1)企業の活動の中で情報がどのように活用されているかについて説明することができる、(2)ビジネスの中で必要となる情報技術について説明することができる、(3)ビジネスの中でデータサイエンスがどのように活かされているかについて説明することができる、ことを目標とする。
		情報と地域連携	本授業のテーマは「情報を地域連携に活かす手法を学ぶ」である。インターネットやデータサイエンスを前提に、大学生や大学教員が地域の企業や住民と連携して、地域の課題解決や人材育成を支援する手法を学ぶ。そのために、どのようにして大学生や大学教員が地域の企業や住民と連携するのか、その手法についても具体的に学び習得する。本授業においては、(1)大学生や大学教員が地域の企業や住民と連携する手法について説明することができる、(2)インターネットやデータサイエンスを活用した地域連携について説明することができる、(3)実例をもとに地域連携の企画を立案して説明することができる、ことを目標とする。
		マーケティングリサーチ	本授業のテーマは「マーケティングリサーチとは、企業のマーケティング課題に対しての意思決定のために行う消費者についての科学的な調査・分析のことであることを具体的に理解する」である。マーケティングリサーチにおける調査・分析については、目的と調査項目を具体的に学習し、調査方法についても習得する。本授業においては、(1)マーケティングリサーチとは何かについて説明することができる、(2)マーケティング課題と解決法について具体的事例をもとに説明することができる、(3)マーケティングリサーチとデータサイエンスの関係性について説明することができる、ことを目標とする。
		情報と防災・福祉	本授業のテーマは「災害について、その種類、発生機構、対策のために情報を活かす方法を学び、情報を活用した福祉の向上の方法を学ぶ」である。様々な災害が存在し、その災害を情報の活用により予知したり対策したりする手法を学ぶ。また、人間的または社会的な幸福につながる福祉のレベルを向上させるための情報を活用した手法についても学ぶ。本授業においては、(1)災害について、その種類、発生機構について説明することができる、(2)災害を情報の活用により予知したり対策したりする手法について説明することができる、(3)福祉のレベルを向上させるための情報を活用した手法について説明することができる、ことを目標とする。

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目 教職等に関する科目	教育基礎論	教育に関連する諸概念を的確に踏まえるとともに、教育に関する理念や思想及びその歴史について、学校教育の歴史的な成り立ちを含めて概観することがテーマである。また、教育を支える諸要因とそれら相互の関係についての理解と確認を図る。授業は講義形式で進める。なお、本授業においては、(1)教育の本質及び目標、また、教育を成り立たせる諸要素とそれらの関係を理解できること、(2)子どもの学習や人間形成、教育と社会との関わりに関する基本的な考え方を理解できること、(3)近代における教育の歴史と教育に関する思想の学習を通じて、社会における教育の意味と近代学校教育の役割等を理解できること、の3点を目標とする。	
	現代教職論	本授業では、学校教育における教員への期待を踏まえ、教職の意義や教員に求められる役割や資質能力及び教員の職務について理解し、併せて、自らの教員としての適性を判断する。なお、本授業は講義形式で実施する。具体的には、(1)生徒の教育を担う学校や教職への期待や社会的な意義を理解すること、(2)現代社会における教員の役割と教員に求められる資質能力を学び続ける教員のあり方と関連付けながら理解すること、(3)教員の服務を含めた職務内容の全体を理解すること、(4)チーム学校のもとで、教職員や学校内外の専門家との連携・協力のあり方の必要性を理解すること、を目標とする。	
	教育の制度と経営	教育と学校、人の発達に関する基礎的な知識を習得するとともに、教育について検討するための態度を養うことを目的とする。講義を通じて、(1)学校教育を中心とした意図的・計画的な公教育制度に関わる意義・理念について、法制度及び現在に至る制度の変遷等について学び、説明することができる、(2)現代の我が国の学校教育制度について、他国の制度及び地域を含む学校教育外の領域との連携・協働に関わる取り組み、学校安全に関わる課題を踏まえつつ説明することができる、(3)学校教育を巡る諸問題と諸課題について、上記目標及び現在の教育改革動向を含め、自らの考えをまとめ発表することができる、の3点を目標とする。	
	教育心理学	本授業は「教授学習過程に関わる諸事象の教育心理学的理解」をテーマとする。第1回の授業では萩原俊彦と平野幹雄が共同で授業ガイダンスを行う。その後、萩原俊彦が担当する7回の授業において、発達の総論、教授学習過程、教育評価について学び、平野幹雄が担当する残り7回の授業において、発達の各論及び関連する諸問題、学習とその障害について学ぶ。本授業においては、上述の学修事項について基本的概念や関連する諸現象を理解し説明できること、生徒が見せる行動の意味について発達の視点から説明ができることを目標とする。なお、本授業は講義形式により実施する。 (オムニバス方式／全15回) (43 萩原 俊彦・44 平野 幹雄／1回) (共同) 初回授業でのガイダンス。内容は萩原俊彦・平野幹雄による授業内容の概説と講義の進め方についての説明 (43 萩原 俊彦／7回) 発達の理論、パーソナリティ発達の実際、教授学習過程の理解、学級集団の特徴、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係、動機付け過程の理解、教育評価とは何か、教育評価の分類、教育評価の実際、教育評価に関わる諸問題 (44 平野 幹雄／7回) 社会性発達の実際、知的発達の実際、記憶と学習の理論、発達に関わる諸問題（心理臨床的問題、生徒指導の重要課題と心理臨床的援助技法、障害児の心理と特別支援教育（特に発達障害等に関する基礎的理解））	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目 教職等に関する科目	特別支援教育論	本授業では特別支援教育の概要について発達障害や知的障害などを取り上げ、各々の障害特性について概説する。加えて、それらへの教育課程や支援の方法について学ぶと同時に、障害はないが特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の困難とその対応についても学ぶ。本授業を通じて、特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、教育課程及び支援のあり方について理解すること、障害はないが特別な教育的ニーズを伴う幼児、児童及び生徒の学習面、生活面での困難と支援のあり方について理解することを目標とする。本授業は講義形式で行う。	
	教育課程論	本授業では、教職を目指すにあたって理解しておかなくてはならない学校における重要な教育の計画である教育課程について概説する。まずは、教育課程を構成する要素など教育課程に関わる基本的な事項について理解し、次に教育課程の基準である学習指導要領の変遷を中心に時代・社会を背景とした教育内容等の変化を確認する。併せて、現行の学習指導要領の基本的な考え方や具体的な教育内容について理解する。最後に、教育課程編成に関わって、その原理、方法・手順と評価（カリキュラム・マネジメントを含む）のあり方をみていく。これらにより、教育課程編成のために必要とされる基本的な力を身に付けることを目標とする。	
	道徳教育の理論と方法	本授業は、社会的な期待を踏まえ、道徳教育の意義と可能性及び困難さについて合理的・実践的に考察するとともに、「特別の教科道徳」の主體的・対話的で深い学習を指導できる実践力の基礎を身に付ける。授業は講義形式で進める。なお、本授業においては、(1)道徳の概念について、その概要を体系的にまとめることができる、(2)道徳教育の意義や目的、構造等、現代の学校教育における道徳教育の基本的特性を説明することができる、(3)「特別の教科道徳」の授業その他の道徳教育の具体的な活動について、実践的な計画を立てることができるようになる、ことを目標とする。	
	特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法	本授業では、教育課程の一領域である特別活動（学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事等）及び総合的な学習の時間の指導法について体系的に学ぶ。本授業は講義形式で進める。なお、本授業においては、(1)特別活動の教育的意義、目標と内容及び指導上の留意点について説明することができる、(2)学校教育の今日的課題との関わりから、特別活動における学校現場に即した具体的な実践例を研究することができる、(3)総合的な学習の時間の教育的意義、目標と内容について理解し、説明することができる、(4)指導計画の作成、指導の評価ができるようになる、ことを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (113 及川 芙美子／10回) オリエンテーション、特別活動の目標と特質、特別活動と人間関係作り、学級活動・ホームルーム活動(学級作り・学級指導の目標と指導計画、指導案の作成)、話し合い活動の指導法、生徒会活動、部活動、学校行事等について講義する。 (68 稲垣 忠／5回) 教育課程上の総合的な学習の役割、主體的・対話的で深い学びを促す課題設定と教材研究、探求過程における学習を支援する手立てと評価、事例に基づく単元計画の作成と評価、年間計画・教材等との連携の方法(カリキュラム・マネジメント)等について講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目 教職等に関する科目	教育の方法と技術	本授業では、授業設計に関わる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶ。授業は講義形式で進める。本授業においては、(1)これからの社会を生きる子どもが身に付けるべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる、(2)学習目標の設定、評価問題、教材研究、学習指導案の作成までの基本的な授業設計を理解し、実際に設計できる、(3)学習者を支援するための基本的な指導技術を身に付け、学習者と接する際に活用することができるようになる、ことを目標とする。	
	ICT活用の理論と方法	教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解することがテーマである。授業における児童生徒及び教員によるICT活用の他、授業準備、学習評価に関する活用、校務への活用や教育データの活用を取り上げる。また、情報活用能力について、その構成要素や具体的な指導法、教育課程上の位置付けを解説する。本授業は、講義形式で行いながら、体験的に学修する機会も設ける。本授業では、(1)教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する、(2)ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する、(3)情報活用能力を育成する意義及び育成方法を身に付ける、ことを目標とする。	
	生徒指導・進路指導の理論と方法	本授業の目的は、生徒指導及び進路指導の理論と方法について理解することである。本授業は講義形式で行う。本授業では、生徒指導及び進路指導・キャリア教育の位置付けや意義、役割等について解説する。また、いじめや暴力行為等の諸課題について講義し、生徒が学校生活や社会生活に適応し、自己実現を図るために必要な生徒指導上の関わりやキャリア発達の支援の方法について学ぶ。本授業を通じて、(1)生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義と原理、(2)生徒指導及び進路指導・キャリア教育の進め方、(3)生徒指導上、進路指導上の課題と対応、のそれぞれについて理解し説明できるようになることを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (69 清水 貴裕／8回) オリエンテーション・生徒指導とは、生徒指導の位置付け・進路指導との関わり、生徒指導における生徒理解と自尊感情の育成、問題行動と規範意識の醸成、いじめ問題への取り組み、不登校と自己存在感の育成、生徒指導の運営と管理、学校・家庭・地域の連携 (114 中村 修／7回) 進路指導・キャリア教育の意義と役割、進路選択の心理（キャリア発達）、進路選択の心理（職業的興味と適性）、社会の変化と進路選択、進路指導の方法と実際、進路指導の運営・管理、まとめと今後の学習についての展望	オムニバス方式
	教育相談の理論と方法	本授業の目的は、教育相談及びカウンセリングの理論と方法について理解することである。本授業は講義形式で行う。本授業では、教育相談の位置付けや目的について述べたうえで、基本的なカウンセリング理論についての講義を行う。また、生徒が抱えるストレスや抑うつ・不安といった情緒面の問題、発達障害や不登校などの理解の仕方と援助方法について解説する。本授業を通じて(1)教育相談とカウンセリングの目的と現状を説明できるようになること、(2)カウンセリングの基礎的な知識や技術を身に付けること、(3)教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携について説明できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目 教職等に 関する科目	数学科教育法（概論）	数学教育の目的や内容、数学学習における学習理論、教材研究、授業計画、評価など数学科教員として必要な数学科教育法の概要について学ぶ。本授業では講義形式を基本とするが、自身の受けた数学教育に関する発表や実際の教材をもとにした作業を通して、教材の効果的な提示方法を学ぶ。さらに、実際に学習指導案を作成して、授業内で学んだ学習理論、教材研究、評価などについて振り返り、指導するうえでの実際の課題を理解する。本授業では、(1)数学教育の目的、教育方法、教材研究、学習指導計画、評価など数学科教育法の概要について説明できる、(2)実際の指導の際にそれらを踏まえた学習指導案を作成できる、ことを目標とする。	
	数学科教育法（理論）	中学校・高等学校学習指導要領解説の内容に基づき、教科・学年・科目・単元の目標などについて解説し、数学科教員として必要な学習指導要領の内容について学ぶ。本授業では講義形式を基本とするが、随時課すレポート課題とそのレポート内容の発表及び受講者間での質疑応答と教員による総括を行うことにより授業内容の定着と深化を図る。本授業では、(1)学習指導要領の改定の経緯、目標、指導内容とその取り扱いなどについて説明することができる、(2)学習指導要領の目標に沿った学習指導計画を立案することができる、ことを目標とする。	
	数学科教育法（実践）	数学の学習指導案作成とその内容に沿った模擬授業の実施を通して、指導過程の工夫や興味関心を引く導入や展開の必要性、具体的な板書の方法、発問、生徒への対応など授業に必要な事項について教師としての心構えを醸成しつつ実践的に学ぶ。本授業は基本的に受講者の模擬授業によって進め、教員の助言と受講者同士のディスカッションを交える。本授業では、(1)指導案作成とその模擬授業を実際に経験することで、実際の指導上で問題点となる点を把握し、分かりやすい授業が運営できる、(2)学習プリント、教具や情報機器の活用について実践例を踏まえることによって、指導過程を工夫することができる、ことを目標とする。	
	数学科教育法（応用）	中学校・高等学校の数学に関する具体的な教材の解説を通して、代数学、幾何学や解析学などの学問領域と教材の関係性を深く理解し、指導上の留意点を講義形式で学ぶ。特に、これらの知識と専門性に基づいて教材研究及び発展的な学習内容について学習指導要領との関連を考察しながら、学習指導の充実を図るための教材探求を行う。本授業では、(1)各教材に対し背景となる代数学、幾何学や解析学等との関係を理解し、教材を深く掘り下げることによって教材研究に活用できる、(2)発展的な学習内容について探究し、教材研究の際に活用できる、(3)具体的な教材の指導上の留意点を把握し、生徒に指導できる、ことを目標とする。	
	情報科教育法（概論・理論）	本授業は、講義形式で学習指導要領解説（情報編）を読み解きながら、情報教育の目的や内容、学習理論、教材研究、授業計画、評価方法など、情報科教員として必要な教科教育法の概要について学んだ後に、情報教育に関する発表や教材開発などの作業を通して効果的な教材の提示方法を学び、学習指導案の作成を通じて授業内で学修した学習理論、教材研究、評価などについて振り返りを進め、情報教育の指導上における課題を理解していく。本授業では、情報教育の目的、教育方法、教材研究、学習指導計画、評価方法など教育法の概要について理解し、実際の学習指導案を作成することができるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(情報学部データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
免許および資格関係科目 教職等に関する科目	情報科教育法（実践・応用）	実際に情報の学習指導案を作成し、その内容に沿った模擬授業の実施を通して、指導過程の工夫や生徒の興味関心を引く導入や展開の必要性、具体的な教材の提示方法、発問、生徒への対応などといった授業展開に必要な事項について実践的に学んでいく。本授業は基本的に受講者の模擬授業によって進められ、受講者同士のディスカッションを交える形式となる。本授業では、情報の学習指導案の作成と模擬授業の実施を通じて、実際の指導上における課題点を把握し、学習プリント、教具や情報機器の活用について実践例を踏まえることで、生徒に分かり易い指導過程への工夫ができるようになることを目標とする。	
	教育実習Ⅰ	本授業は、中学校及び高等学校教諭免許状取得希望者を対象とする。中・高等学校現場での指導実習を通して生徒理解を深めるとともに、中・高等学校の発達段階にある生徒を対象とした授業に関する実践的指導力を培う。学習指導はもちろん、学級経営や特別活動の取り組みについての理解を深めることで、教師の職務と責任を理解し、教職を目指す意欲と態度を育成する。本授業は、教員の使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に教師としての使命感と責任感を持って生徒に接する姿勢を持てるようになることを達成目標とする。本授業は、実習形式に加え、講義、演習形式による事前指導、事後指導からなる。	
	教育実習Ⅱ	本授業は、中学校教諭免許状取得希望者を対象とする。学習指導のみならず学級経営や特別活動などの教科外指導の理解を深め、自らの教員としての適性を考えながら教職を目指す意欲と態度を育成していく。これにより、中学校現場での直接的な指導実習を通して、「教育実習Ⅰ」で身に付けた力をさらに高めていく。本授業は、教員の使命や職務に関する理解と深い生徒理解に基づき、教科指導及び教科外指導など様々な場面で適切に生徒と関わりながら、教育を実践できる中学校教員としての総合的な指導力の基盤を養うことを達成目標とする。本授業は、実習形式に加え、講義、演習形式による事前指導、事後指導からなる。	
	教職実践演習（中・高）	教職課程の履修を通じて身に付けた基本的な資質能力(1)教員としての使命感や責任感・教育的愛情、(2)生徒理解力や学級経営力、(3)教科学習の指導力、(4)社会性や対人関係力のありようについて反省的に認識するとともに、教員になるうえでの自身の課題を自覚し、不足している知識や技能等を適宜補い、その定着を図ることを目標とする。このため本授業では、子ども理解及び学級経営、学習指導、安全教育をテーマとし、具体的な指導事例の検討や学習指導案の作成及び模擬授業の実施、自身の実践的指導力を統合し、かつ教員として最小限必要なレベルにまで高める。本授業は演習形式で行う。	
	介護体験実習	本授業は、中学校教諭免許状の取得を目指す者が、特別支援学校及び社会福祉施設における介護等の体験を通じて、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることをねらいとする。講義形式にて事前指導を行った後、合計7日間の実習に取り組む。本授業においては、(1)教職を志望する者が自主的・自発的な姿勢を高めながら、意欲的に体験実習に取り組み、その結果一人一人の人間のかげがえのなさや、人間同士の支え合いの大切さについて深く理解すること、またそれとともに、(2)自分と他の人の幸せを願う心を育むこと、を目標とする。	

学校法人東北学院 設置認可等に関わる組織の移行表(大学)

令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
東北学院大学				東北学院大学				
文学部				文学部				
英文学科	180	2年次 6	762	英文学科	<u>150</u>	2年次 0	<u>606</u>	定員変更(△30)
		3年次 12				3年次 3		編入学定員変更
総合人文学科	50	3年次 2	204	総合人文学科	<u>60</u>	3年次 1	<u>242</u>	定員変更(10)
		2年次 2				2年次 0		編入学定員変更
歴史学科	170	3年次 3	692	歴史学科	170	3年次 1	<u>682</u>	編入学定員変更
教育学科	50	-	200	教育学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	定員変更(20)
経済学部				経済学部				
経済学科	440	2年次 6	1,796	経済学科	<u>430</u>	2年次 0	<u>1,720</u>	定員変更(△10)
		3年次 9				3年次 0		編入学定員変更
共生社会経済学科	187	2年次 4	766		<u>0</u>	2年次 0	<u>0</u>	令和5年4月学生募集停止
		3年次 3						
経営学部				経営学部				
経営学科	341	2年次 6	1,398	経営学科	341	2年次 0	<u>1,368</u>	編入学定員変更
		3年次 8				3年次 2		
法学部				法学部				
法律学科	358	2年次 4	1,456	法律学科	<u>355</u>	2年次 0	<u>1,420</u>	定員変更(△3)
		3年次 6				3年次 0		編入学定員変更
工学部				工学部				
機械知能工学科	110	3年次 6	452	機械知能工学科	<u>115</u>	3年次 0	<u>460</u>	定員変更(5)
		3年次 6				3年次 0		編入学定員変更
電気電子工学科	110	3年次 6	452	電気電子工学科	<u>130</u>	3年次 0	<u>520</u>	定員変更(20)
		3年次 5				3年次 0		編入学定員変更
環境建設工学科	110	3年次 5	450	環境建設工学科	<u>115</u>	3年次 0	<u>460</u>	定員変更(5)
		3年次 5			<u>0</u>	3年次 0	<u>0</u>	編入学定員変更
情報基盤工学科	110		450		<u>0</u>		<u>0</u>	令和5年4月学生募集停止

学校法人東北学院 設置認可等に関わる組織の移行表(大学)

令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
教養学部		2年次						
人間科学科	110	2	450	0	0	0	0	令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
言語文化学科	110	2	450	0	0	0	0	令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
情報科学科	110	2	450	0	0	0	0	令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
地域構想学科	110	2	450	0	0	0	0	令和5年4月学生募集停止
		3年次						
		2						
								地域総合学部
								学部の設置(届出)
								地域コミュニティ学科
					150	-	600	
								政策デザイン学科
					145	-	580	
								情報学部
								学部の設置(届出)
								データサイエンス学科
					190	-	760	
								人間科学部
								学部の設置(届出)
								心理行動科学科
					165	-	660	
								国際学部
								学部の設置(届出)
								国際教養学科
					130	-	520	
計	2,656	2年次 36 3年次 73	10,878	計	2,716	2年次 0 3年次 1	10,878	

学校法人東北学院 設置認可等に関わる組織の移行表(大学院)

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東北学院大学大学院				東北学院大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
英語英文学専攻(M)	10	-	20	英語英文学専攻(M)	10	-	20	
英語英文学専攻(D)	3	-	9	英語英文学専攻(D)	3	-	9	
ヨーロッパ文化史専攻(M)	5	-	10	ヨーロッパ文化史専攻(M)	5	-	10	
ヨーロッパ文化史専攻(D)	2	-	6	ヨーロッパ文化史専攻(D)	2	-	6	
アジア文化史専攻(M)	5	-	10	アジア文化史専攻(M)	5	-	10	
アジア文化史専攻(D)	2	-	6	アジア文化史専攻(D)	2	-	6	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	8	-	16	経済学専攻(M)	8	-	16	
経済学専攻(D)	2	-	6	経済学専攻(D)	2	-	6	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学専攻(M)	8	-	16	経営学専攻(M)	8	-	16	
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻(M)	10	-	20	法律学専攻(M)	10	-	20	
法律学専攻(D)	2	-	6	法律学専攻(D)	2	-	6	
工学研究科				工学研究科				
機械工学専攻(M)	8	-	16	機械工学専攻(M)	8	-	16	
機械工学専攻(D)	2	-	6	機械工学専攻(D)	2	-	6	
電気工学専攻(M)	8	-	16	電気工学専攻(M)	8	-	16	
電気工学専攻(D)	2	-	6	電気工学専攻(D)	2	-	6	
電子工学専攻(M)	8	-	16	電子工学専攻(M)	8	-	16	
電子工学専攻(D)	2	-	6	電子工学専攻(D)	2	-	6	
環境建設工学専攻(M)	8	-	16	環境建設工学専攻(M)	8	-	16	
環境建設工学専攻(D)	2	-	6	環境建設工学専攻(D)	2	-	6	
人間情報学研究科				人間情報学研究科				
人間情報学専攻(M)	8	-	16	人間情報学専攻(M)	8	-	16	
人間情報学専攻(D)	3	-	9	人間情報学専攻(D)	3	-	9	
計	108	0	238	計	108	0	238	